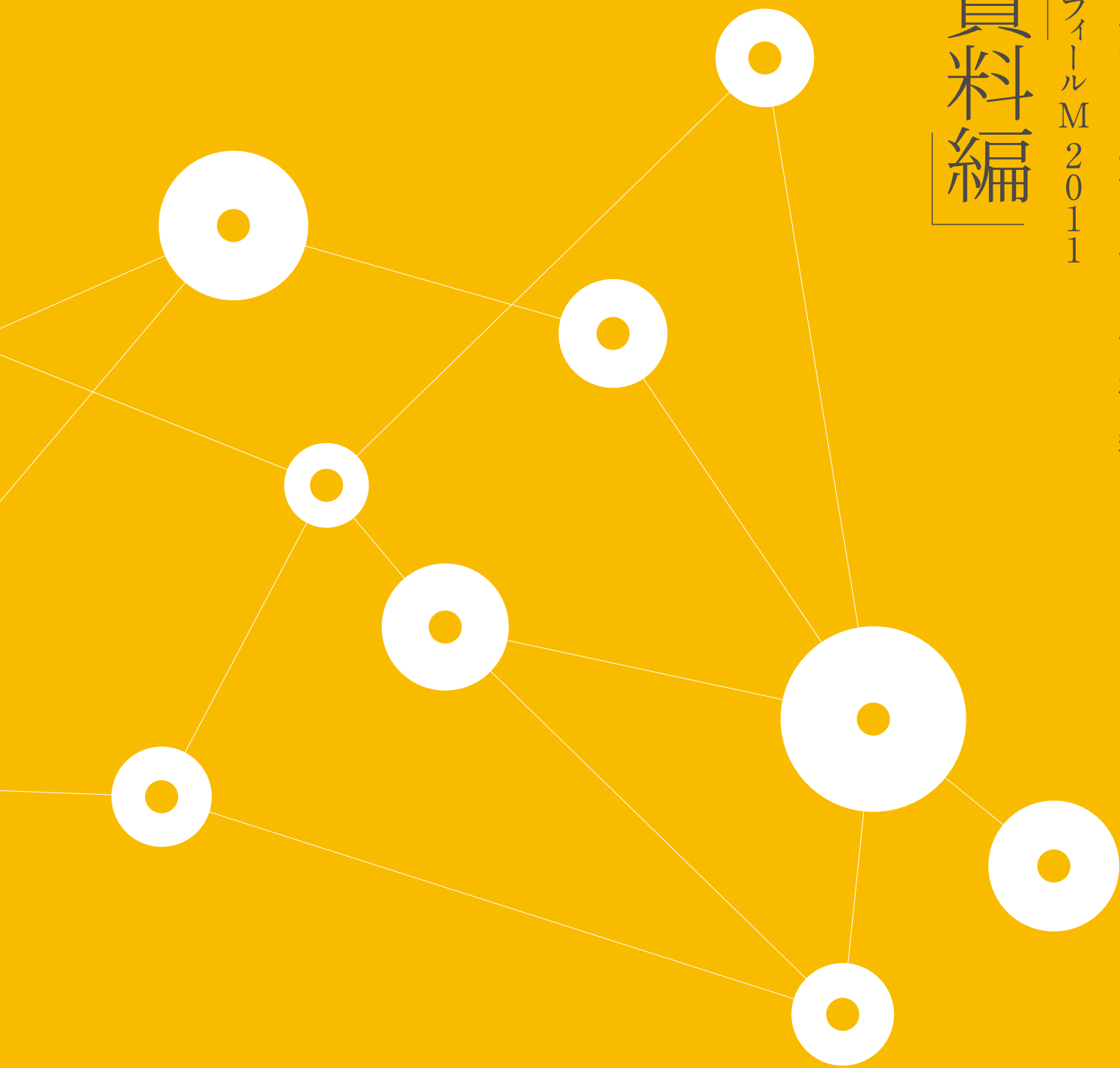


名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

プロフィール M 2011

資料編



PROFILE **M.**

2011

NAGOYA UNIVERSITY
Graduate School of Medicine, and
School of Medicine

名古屋大学医学部の理念

1

人類の健康の増進に寄与する先端的医学研究を進め、
新たな医療技術を創成する。

2

医の倫理を尊重し、
人類の幸福に真に貢献することを誇りとする医学研究者及び医療人を育成する。

3

医学研究、医療の両面にわたり諸施設と共同して、
地域社会の医療の質を高めるとともに、我が国及び世界の医療水準の向上に資する。

4

医学研究及び医療の中核として機能するために、
人的・社会的資源を有効に活用し、世界に開かれたシステムを構築する。



医学部のシンボルマークについて

3羽の鶴をあしらったもので、
それぞれに愛(人間愛)・和(協調)・誠(誠実)を象徴している。
これは、医の真髄、医学研鑽の心構えとして
医師が継承すべきものという意味が込められている。

CONTENTS

	沿革	02-03		
	歴代医学部長	04		
教育・研究組織 05	機構図	06		
	役職員	07		
	鶴舞キャンパス	医学系研究科 医学博士課程	分子総合医学専攻 09	
	大学院医学系研究科		細胞情報医学専攻 10	
	医学博士課程・修士課程		機能構築医学専攻 11	
	医学部 医学科		健康社会医学専攻 12	
	08		研究科長直属大学院コース 13	
			研究者養成特別コース(MD・PhDコース)	
			連携大学院 14	
			寄附講座 15-17	
		修士課程	医科学専攻 18	
			医科学専攻 医療行政コース 19	
		医学部	医学科 20	
		附属施設	名古屋大学附属図書館医学部分館 21	
			附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 21	
			附属医学教育研究支援センター 22	
			附属総合医学教育センター 22	
		大幸キャンパス	医学系研究科 博士課程	看護学専攻 24
		大学院医学系研究科		医療技術学専攻 24
		博士課程		リハビリテーション療法学専攻 24
	医学部 保健学科		25	
	23	医学部 保健学科	25	
データ集 27	事務部組織図		28	
	職員数		29	
	学生定員および現員	医学系研究科	30-31	
		医学部	32	
	医学系研究科修了者数		33	
	医学部卒業生数／学位(医学博士)授与者数		34	
	外国人留学生・外国人研究員等		35	
	国際交流協定による派遣学生数および受入学生数		36	
	医学部・医学系研究科からの国別海外留学生数		37	
	名古屋大学附属図書館医学部分館／スキルス&ITラボラトリーの使用状況／解剖体数		38	
	産学官連携に関するデータ	知的財産	39	
	産学官連携に関するデータ	共同研究・受託研究	40	
	ニュースリリース		41	
	鶴舞公開講座		42	
	ロケーション 43	鶴舞キャンパス配置図		44-45
		大幸キャンパス配置図		46
		土地及び建物		47
交通案内			48	

(冊子の紹介)

資料編

医をつなぐ。

本冊子は、本学部・本研究科の概要をデータを中心に記載しています。別冊に、ビジョンや取り組み、人について紹介した「医をつなぐ。」があり、それぞれの記事に相互の関連ページを記載するなど、参照しやすさに配慮しています。

沿革

1871(明治 4) 年	名古屋藩評定所跡(現中区丸の内三丁目1)に公立の仮病院(1872年閉院)及び元町役所に仮医学校(1872年廃校)設置
1872(明治 5) 年	廃藩により有志きよ金で義病院として経営(1873年閉院)
1873(明治 6) 年	県民きよ金で仮病院(西本願寺別院、現中区門前町1)として経営
1873(明治 6) 年	医学講習場(西本願寺別院)設置
1875(明治 8) 年	愛知県病院と改称
1876(明治 9) 年	公立医学講習場及び公立病院と改称
1876(明治 9) 年	公立医学所と改称
1877(明治 10) 年	天王崎町(現中区栄1丁目17~18番地)に移転(7月1日病院開院式)
1878(明治 11) 年	公立医学校と改称
1881(明治 14) 年	愛知医学校及び愛知病院と改称
1901(明治 34) 年	愛知県立医学校と改称
1903(明治 36) 年	愛知県立医学専門学校として新発足
1914(大正 3) 年	中区(現昭和区)鶴舞町に新築、移転
1920(大正 9) 年	愛知医科大学の設置
1922(大正 11) 年	愛知医科大学病院と改称
1924(大正 13) 年	愛知医科大学附属医院と改称
1931(昭和 6) 年	官立移管 名古屋医科大学・名古屋医科大学附属医院となる
1939(昭和 14) 年	名古屋帝国大学医学部の発足・名古屋帝国大学医学部附属病院と改称
1939(昭和 14) 年	名古屋帝国大学臨時附属医学専門部の設置(1949年廃止)
1943(昭和 18) 年	名古屋帝国大学航空医学研究所の設置(1946年廃止)
1944(昭和 19) 年	名古屋帝国大学附属医学専門部と改称
1944(昭和 19) 年	名古屋帝国大学医学部附属病院分院の設置(1996年本院へ統合一元化)
1946(昭和 21) 年	名古屋帝国大学環境医学研究所を設置
1947(昭和 22) 年	名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属医院となる
1947(昭和 22) 年	名古屋大学附属医学専門部と改称(1950年廃止)
1949(昭和 24) 年	新制名古屋大学が発足 名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属病院となる

1951(昭和 26)年	医学部附属看護学校設置(1980年廃校)
1955(昭和 30)年	医学部附属診療エックス線技師学校設置
1959(昭和 34)年	医学部附属助産婦学校設置(1981年廃校)
1959(昭和 34)年	医学部附属無菌動物研究施設設置(1983年改組)
1961(昭和 36)年	医学部附属衛生検査技師学校設置
1962(昭和 37)年	医学部附属癌研究施設設置(1983年改組)
1965(昭和 40)年	医学部附属医真菌研究施設設置(1983年改組)
1966(昭和 41)年	医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科設置
1969(昭和 44)年	医学部附属診療放射線技師学校と改称(1982年廃校)
1972(昭和 47)年	医学部附属臨床検査技師学校と改称(1981年廃校)
1977(昭和 52)年	名古屋大学医療技術短期大学部設置(2001年廃止)
1983(昭和 58)年	医学部附属病態制御研究施設設置(2003年改組)
1996(平成 8)年	名古屋大学医学部附属病院分院を統合
1996(平成 8)年	診療所「名古屋大学大幸医療センター」設置(2011年廃院)
1997(平成 9)年	医学部保健学科設置
2000(平成 12)年	医学部の大学院重点化完成
2001(平成 13)年	大学院医学研究科修士課程医科学専攻設置
2001(平成 13)年	附属病態制御研究施設と附属動物実験施設の所属を ----- 大学院医学研究科に変更
2002(平成 14)年	医学研究科を医学系研究科に改称し、医学系研究科に修士課程看護学専攻、 ----- 修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学専攻設置
2003(平成 15)年	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター設置
2003(平成 15)年	医学系研究科に修士課程医科学専攻医療行政コース設置
2004(平成 16)年	医学系研究科修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び ----- 修士課程リハビリテーション療法学は博士課程(前期課程・後期課程)となる
2004(平成 16)年	附属医学教育研究支援センター設置
2005(平成 17)年	医学部附属総合医学教育センター設置

歴代医学部長

田村 春吉	TAMURA, Harukichi	1939(昭和14)年 4月 1日 ~ 1946(昭和21)年 1月31日
田村 春吉	TAMURA, Harukichi	1946(昭和21)年 1月31日 ~ 1946(昭和21)年 2月 9日 ※
戸荊 近太郎	TOGARI, Chikataro	1946(昭和21)年 2月 9日 ~ 1952(昭和27)年 2月 9日
久野 寧	KUNO, Yasu	1952(昭和27)年 2月 9日 ~ 1954(昭和29)年 3月31日
戸荊 近太郎	TOGARI, Chikataro	1954(昭和29)年 4月 1日 ~ 1958(昭和33)年 3月31日
山田 和麻呂	YAMADA, Kazumaro	1958(昭和33)年 4月 1日 ~ 1960(昭和35)年 3月31日
村松 常雄	MURAMATSU, Tsuneo	1960(昭和35)年 4月 1日 ~ 1962(昭和37)年 3月31日
神田 善吾	KANDA, Zengo	1962(昭和37)年 4月 1日 ~ 1964(昭和39)年 3月31日
橋本 義雄	HASHIMOTO, Yoshio	1964(昭和39)年 4月 1日 ~ 1966(昭和41)年 3月31日
小笠原 一夫	OGASAWARA, Kazuo	1966(昭和41)年 4月 1日 ~ 1967(昭和42)年 10月20日
小嶋 克	KOJIMA, Koku	1967(昭和42)年 10月20日 ~ 1969(昭和44)年 3月31日 ※
高木 健太郎	TAKAGI, Kentaro	1969(昭和44)年 4月 1日 ~ 1972(昭和47)年 4月 1日 ※
石塚 直隆	ISHIZUKA, Naotaka	1972(昭和47)年 4月 1日 ~ 1974(昭和49)年 3月31日
田内 久	TAUCHI, Hisashi	1974(昭和49)年 4月 1日 ~ 1976(昭和51)年 3月31日
加藤 延夫	KATOH, Nobuo	1976(昭和51)年 4月 1日 ~ 1978(昭和53)年 3月31日
祖父江 逸郎	SOBUE, Itsuro	1978(昭和53)年 4月 1日 ~ 1980(昭和55)年 3月31日
飯島 宗一	IIJIMA, Soichi	1980(昭和55)年 4月 1日 ~ 1981(昭和56)年 7月21日
加藤 延夫	KATOH, Nobuo	1981(昭和56)年 7月22日 ~ 1985(昭和60)年 7月21日
佐久間 貞行	SAKUMA, Sadayuki	1985(昭和60)年 7月22日 ~ 1987(昭和62)年 7月21日
青木 國雄	AOKI, Kunio	1987(昭和62)年 7月22日 ~ 1989(平成元)年 7月21日
永津 俊治	NAGATSU, Toshiharu	1989(平成元)年 7月22日 ~ 1991(平成3)年 7月21日
齋藤 英彦	SAITOH, Hidehiko	1991(平成3)年 7月22日 ~ 1995(平成7)年 7月21日
栗屋 忍	AWAYA, Shinobu	1995(平成7)年 7月22日 ~ 1997(平成9)年 3月31日
中島 泉	NAKASHIMA, Izumi	1997(平成9)年 4月 1日 ~ 1999(平成11)年 3月31日
勝又 義直	KATSUMATA, Yoshinao	1999(平成11)年 4月 1日 ~ 2003(平成15)年 3月31日
杉浦 康夫	SUGIURA, Yasuo	2003(平成15)年 4月 1日 ~ 2005(平成17)年 3月31日
濱口 道成	HAMAGUCHI, Michinari	2005(平成17)年 4月 1日 ~ 2009(平成21)年 3月31日
祖父江 元	SOBUE, Gen	2009(平成21)年 4月 1日 ~

※事務取扱

教育・研究組織

名古屋大学医学部・大学院医学系研究科は、
昭和区鶴舞と東区大幸に2つのキャンパスを有し、
中京地区の医学研究および
医療の中核拠点として発展を遂げてきた。

附属病院を含む広範な組織では、「教育」「研究」「治療」を柱に
健康の増進に寄与し人類の幸福に真に貢献する

という共通の目標を掲げ、

個々の専門性に特化した先端領域を追求している。

次頁からは「教育」「研究」を担う組織の概要を紹介する。

機構図 06

役職員 07

鶴舞キャンパス 医学系研究科 09

大学院医学系研究科
医学博士課程・修士課程
医学部 医学科
08

医学部 20

附属施設 21

大幸キャンパス 医学系研究科 24

大学院医学系研究科
博士課程
医学部 保健学科

23 医学部 25

機構図



役職員

大学院医学系研究科

医学系研究科長	Dean of Graduate School of Medicine	祖父江 元 教授 ※	SOBUE, Gen
副研究科長(学務担当)	Vice-Dean for Medical Education	藤本 豊士 教授	FUJIMOTO, Toyoshi
副研究科長(人事労務担当)	Vice-Dean for Personnel Affairs and Labor	直江 知樹 教授	NAOE, Tomoki
副研究科長(大学院教育担当)	Vice-Dean for Graduate Program	古川 鋼一 教授	FURUKAWA, Koichi
副研究科長(大学院・倫理担当)	Vice-Dean for Graduate School Affairs and Ethics	大野 欽司 教授	OHNO, Kinji
副研究科長(施設・財務担当)	Vice-Dean for Finance and Resource Planning	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
副研究科長(研究・評価担当)	Vice-Dean for Research and Evaluation	若林 俊彦 教授	WAKABAYASHI, Toshihiko

医学部

医学部長	Dean of School of Medicine	祖父江 元 教授 ※	SOBUE, Gen
医学科長	Head of School of Medicine	祖父江 元 教授 ※	SOBUE, Gen
病院長	Director of University Hospital	松尾 清一 教授 ※	MATSUO, Seiichi
保健学科長	Head of School of Health Sciences	榊原 久孝 教授 ※	SAKAKIBARA, Hisataka

その他の施設

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター長	Director of Center for Neural Disease and Cancer	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
附属医学教育研究支援センター長	Director of Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering	高橋 雅英 教授 ※	TAKAHASHI, Masahide
名古屋大学附属図書館医学部分館長	Director of Nagoya University Medical Library	大磯 ユタカ 教授	OHISO, Yutaka
アイントープ総合センター分館長	Director of Radioisotope Center Medical Division	磯部 健一 教授	ISOBE, Kenichi

事務部

事務部長	Director of Administration	青山 正晴	AOYAMA, Masaharu
総務課長	Chief of General Affairs Division	川村 篤	KAWAMURA, Atsushi
人事労務主幹	Supervisor for Personnel Affairs and Labor	桜井 雅憲	SAKURAI, Masanori
学務課長	Chief of Student Affairs Division	西尾 直人	NISHIO, Naoto
経営企画課長	Chief of Management and Planning Division	永家 清考	NAGAYA, Kiyoyasu
経理課長	Chief of Accounting Division	杉浦 良幸	SUGIURA, Yoshiyuki
施設管理主幹	Supervisor for Facilities Management	祖父江 信和	SOBUE, Nobukazu
医事課長	Chief of Hospital Affairs Division	仲井 精一	NAKAI, Seiichi
医療サービス課長	Chief of Medical Service Division	中西 達公	NAKANISHI, Tatsuhiko
大幸地区事務統括課長	Chief of General Administration Division, Daiko Campus	山下 啓二	YAMASHITA, Keiji

※は名古屋大学教育研究評議会評議員を示す。

(2011年4月1日現在)

鶴舞キャンパス

大学院医学系研究科 医学博士課程・修士課程

医学部 医学科

名古屋市昭和区の鶴舞公園に隣接する
名古屋大学鶴舞キャンパスには、
大学院医学系研究科の医学博士課程と
修士課程、医学部、そして附属施設が集結。
市民に「名大病院」として親しまれる附属病院と
緊密な連携を図りながら、
質の高い教育と研究が行われている。

医学系研究科	医学博士課程	分子総合医学専攻	09
		細胞情報医学専攻	10
		機能構築医学専攻	11
		健康社会医学専攻	12
		研究科長直属大学院コース 研究者養成特別コース(MD・PhDコース)	13
連携大学院	14		
寄附講座	15-17		
修士課程	医科学専攻	18	
	医科学専攻 医療行政コース	19	
医学部	医学科	20	
附属施設	名古屋大学附属図書館医学部分館	21	
	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター	21	
	附属医学教育研究支援センター	22	
	附属総合医学教育センター	22	

大学院医学系研究科 医学博士課程・修士課程

1955(昭和30)年に設置された名古屋大学大学院医学系研究科は、一貫して医学における学術の理論と応用を教育・研究し、学術の研究者と高度の専門技術者を養成してきた。先端・多様化した現代医学に対応した、包括的で開放的な研究環境を実現するため、2000(平成12)年までの3年をかけて4専攻への改組を行い、さらに、研究の一層の先端化を図る研究センター、教育・研究支援センター、修士課程などを充実させて、現在の形に至る。

各専攻では、研究とともに該当分野における大学院教育と学部教育を兼務担当する。

医学部医学科

「医の倫理を尊重し、人類の幸福に真に貢献することを誇りとする医学研究者および医療人を育成する」などの基本方針のもとに、国際化を見据えたカリキュラムを含む6年間一貫教育を行っている。また、医学の各分野にわたり広く総合的に研究を展開する。

分子総合医学専攻

入学定員
52名

分子レベルでの解析から、病因・病態の解明と新しい診断・治療法の開発を包括的に目指す専攻。

分析的医学解析技術を主な研究方法とする基礎医学系

には「生物化学」「微生物・免疫学」、臨床医学系には「病態内科学」「高次医用科学」の計4つの大講座があり、さらに2つずつの協力講座と連携講座で構成される。

● 組織

大講座名	専門分野	担当教授
生物化学 Biological Chemistry	分子生物学 Molecular Biology	門松 健治 教授 KADOMATSU, Kenji
	生体高分子学 Biomacromolecules	
	分子細胞化学 Molecular and Cellular Biology	(古川 鋼一 教授 FURUKAWA, Koichi)
微生物・免疫学 Microbiology and Immunology	分子病原細菌学 Molecular Bacteriology	荒川 宜親 教授 ARAKAWA, Yoshichika
	耐性菌制御学 Drug Resistance and Pathogenesis	
	分子細胞免疫学 Immunology	磯部 健一 教授 ISOBE, Kenichi
	免疫細胞動態学 Cellular Immunology	
	ウイルス学 Molecular Virology	西山 幸廣 教授 NISHIYAMA, Yukihiro
病態内科学 Internal Medicine	血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	直江 知樹 教授 NAOE, Tomoki
	循環器内科学 Cardiology	室原 豊明 教授 MUROHARA, Toyooki
	消化器内科学 Gastroenterology	後藤 秀実 教授 GOTOH, Hidemi
	呼吸器内科学 Respiratory Medicine	長谷川 好規 教授 HASEGAWA, Yoshinori
	糖尿病・内分泌内科学 Endocrinology and Diabetes	大磯 ユタカ 教授 OHISO, Yutaka
	腎臓内科学 Nephrology	松尾 清一 教授 MATSUO, Seiichi
高次医用科学 High-Technology Application of Medicine	量子医学 Radiology	
	量子介入治療学 Interventional & Therapeutic Radiology	
	臓器病態診断学 Clinical Pathophysiology	中村 栄男 教授 NAKAMURA, Shigeo
	病態構造解析学 Clinical Pathology	
先端応用医学(協力) Advanced Medical Science	機能分子制御学 Molecular Biochemistry	古川 鋼一 教授 FURUKAWA, Koichi
	分子標的治療学 Molecular Mycology and Medicine	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
	神経遺伝情報学 Neurogenetics and Bioinformatics	先端応用医学部門
	疾患モデル解析学 Disease Models	
	生物情報解析工学 Bioinformatics Analysis	工学研究科
分子診断ナノ工学 Nanoengineered Molecular Diagnostics		馬場 嘉信 教授 BABA, Yoshinobu
実験動物科学(協力) Laboratory Animal Science	実験動物科学 Laboratory Animal Science	附属医学教育研究支援センター 実験動物部門
老化基礎科学(連携) Aging Research	老化基礎科学 Aging Research	国立長寿医療研究センター 研究所
		丸山 光生 客員教授 MARUYAMA, Mitsuo 柳澤 勝彦 客員教授 YANAGISAWA, Katsuhiko
免疫不全統御学(連携) AIDS Research	免疫不全統御学 AIDS Research	国立病院機構 名古屋医療センター
		杉浦 亙 客員教授 SUGIURA, Wataru

(2011年4月1日現在)

細胞情報医学専攻

入学定員
43名

「分子総合医学専攻」と「機能構築医学専攻」との間において、その両方に関わる細胞情報を研究対象とする専攻。細胞をはじめとする生体情報の研究は、今後の医学・

生命科学の主流のひとつとなるものである。

基礎医学系には「細胞科学」、臨床医学系には「脳神経病態制御学」「頭頸部・感覚器外科学」の計3つの大講座があり、さらに6つの協力講座と1つの連携講座で構成される。

● 組織

大講座名	専門分野	担当教授
細胞科学 Cell Science	細胞生物物理学 Cell Biophysics	曾我部 正博 教授 SOKABE, Masahiro
	イメージング生理学 Imaging Physiology	
	細胞生理学 Cell Physiology	
	分子動態学 Cell Pharmacology	
	分子薬理学 Molecular Pharmacology	
脳神経病態制御学 Clinical Neurosciences	神経内科学 Neurology	祖父江 元 教授 SOBUE, Gen
	精神医学 Psychiatry	尾崎 紀夫 教授 OZAKI, Norio
	精神生物学 Psychobiology	若林 俊彦 教授 WAKABAYASHI, Toshiniko
	脳神経外科学 Neurosurgery	
	脳神経先端医療 開発学 Frontier Surgical Neuroscience	
	脳血管内治療学 Endovascular Neurosurgery	
頭頸部・感覚器外科学 Head and Neck and Sensory Organ Medicine	眼科学 Ophthalmology	寺崎 浩子 教授 TERASAKI, Hiroko
	感覚器障害制御学 Protective Care for Sensory Disorders	中島 務 教授 NAKASHIMA, Tsutomu
	耳鼻咽喉科学 Otorhinolaryngology	
	認知・言語医学 Cognitive and Speech Medicine	
	顎顔面外科学 Maxillofacial Surgery	
咀嚼障害制御学 Protective Care for Masticatory Disorders		
神経科学(協力) Neuroscience	神経情報薬理学 Neuroscience 附属神経疾患・ 腫瘍分子医学研究センター 発生・再生医学部門	貝淵 弘三 教授 KAIBUCHI, Kozo
腫瘍病態学(協力) Oncology	分子腫瘍学 Molecular Carcinogenesis 腫瘍生物学 Cancer Biology 附属神経疾患・ 腫瘍分子医学研究センター 腫瘍病態統御部門	高橋 隆 教授 TAKAHASHI, Takashi
臨床薬物情報学(協力) Clinical Pharmacology	医療薬学 Clinical Pharmacy 病院 薬剤部	山田 清文 教授 YAMADA, Kiyofumi
高次神経統御学(協力) Higher Nervous Control	視覚神経科学 Visual Neuroscience	小松 由紀夫 教授 KOMATSU, Yukio
	神経免疫学 Neuroimmunology 環境医学研究所	錫村 明生 教授 SUZUMURA, Akio
	脳生命科学 Brain Life Science	澤田 誠 教授 SAWADA, Makoto
器官系機能調節学(協力) Regulation of Organ Function	神経性調節学 Neural Regulation 環境医学研究所	神谷 香一郎 教授 KAMIYA, Kaichiro
	心・血管学 Cardiovascular Research	
分子・細胞適応学(協力) Molecular and Cellular Adaptation	発生・遺伝学 Teratology and Genetics	村田 善晴 教授 MURATA, Yoshiharu
	分子シグナル制御学 Cell Signaling and Molecular Medicine 環境医学研究所	武川 睦寛 教授 TAKEKAWA, Mutsuhiro
	ゲノム動態制御学 Genome Dynamics	益谷 央豪 教授 MASUTANI, Chikahide
神経生化学(連携) Neurochemistry	神経生化学 Neurochemistry 愛知県心身障害者 コロニー	中山 敦雄 客員教授 NAKAYAMA, Atsuo
		永田 浩一 客員教授 NAGATA, Koichi

(2011年4月1日現在)

機能構築医学専攻

入学定員
39名

身体の器官・組織を中心に研究し、生体機能を臓器・個体レベルで再建・回復させることに力点を置く専攻。

形態学的解析技術を主な研究方法とする基礎医学系に

は「機能形態学」「病理病態学」、臨床医学系には「病態外科学」「運動・形態外科学」「生体管理医学」の計5つの大講座があり、さらに2つの協力講座と1つの連携講座で構成される。

● 組織

大講座名	専門分野		担当教授
機能形態学 Anatomy and Cell Biology	分子細胞学	Molecular Cell Biology	藤本 豊土 教授 FUJIMOTO, Toyoshi
	機能組織学	Functional Anatomy and Neuroscience	木山 博資 教授 KIYAMA, Hiroshi
	細胞生物学	Cell Biology	宮田 卓樹 教授 MIYATA, Takaki
	超微形態学	Ultrastructural Morphology	
病理病態学 Pathology	生体反応病理学	Biological Response	豊國 伸哉 教授 TOYOKUNI, Shinya
	分子病理診断学	Molecular Diagnosis	
	腫瘍病理学	Tumor Pathology	(高橋 雅英 教授 TAKAHASHI, Masahide)
	神経機能病理学	Neuropathology	
病態外科学 Surgery	腫瘍外科学	Surgical Oncology	榑野 正人 教授 NAGINO, Masato
	血管外科学	Vascular Surgery	古森 公浩 教授 KOMORI, Kimihiro
	消化器外科学	Gastroenterological Surgery	
	移植・内分泌外科学	Transplantation and Endocrine Surgery	木内 哲也 教授 KIUCHI, Tetsuya
	心臓外科学	Cardiac Surgery	上田 裕一 教授 UEDA, Yuichi
	呼吸器外科学	Thoracic Surgery	
	小児外科学	Pediatric Surgery	安藤 久實 教授 ANDOH, Hisami
	泌尿器科学	Urology	後藤 百万 教授 GOTOH, Momokazu
運動・形態外科学 Musculoskeletal and Cutaneous Medicine	整形外科	Orthopaedics	石黒 直樹 教授 ISHIGURO, Naoki
	リウマチ学	Rheumatology	
	手の外科学	Hand Surgery	平田 仁 教授 HIRATA, Hitoshi
	皮膚病態学	Dermatology	秋山 真志 教授 AKIYAMA, Masashi
	皮膚結合組織病態学	Connective Tissue Disease and Autoimmunity	
	形成外科学	Plastic and Reconstructive Surgery	亀井 譲 教授 KAMEI, Yuzuru
生体管理医学 Biomedical Regulation	麻酔・蘇生医学	Anesthesiology	西脇 公俊 教授 NISHIWAKI, Kimitoshi
	臨床感染統御学	Infectious Diseases	
	救急・集中治療医学	Emergency and Critical Care Medicine	松田 直之 教授 MATSUDA, Naoyuki
発生・再生医学(協力) Development	分子病理学	Molecular Pathology	高橋 雅英 教授 TAKAHASHI, Masahide
病態医療学(協力) Clinical Management Medicine	手術医療学	Operation Medicine	病院 手術部
	細胞治療医学	Cell Therapy Medicine	病院 輸血部
	病理組織医学	Anatomical Pathology	病院 病理部
	光学医療学	Diagnostic and Therapeutic Endoscopy	病院 光学医療診療部
	放射線医療学	Clinical Radiology	病院 放射線部
	化学療法学	Clinical Oncology and Chemotherapy	病院 化学療法部
	画像情報診断・工学	Diagnostic Medical Image Processing	情報科学研究科
細胞工学(連携) Cancer Genetics	細胞工学	Cancer Genetics	瀬戸 加大 客員教授 SETO, Masao 関戸 好孝 客員教授 SEKIDO, Yoshitaka
	細胞腫瘍学	Cellular Oncology	稲垣 昌樹 客員教授 INAGAKI, Masaki 葛島 清隆 客員教授 KUZUSHIMA, Kiyotaka

(2011年4月1日現在)

健康社会医学専攻

入学定員
27名

社会医学的、予防医学的視点から研究する専攻。
医療の国際化・出生率低下・高齢化などの社会変化や、
高度化する医療の中での一次医療の重要性などを踏ま

え、社会との接点に重点を置きながらの疾病からの回復
などを目指す。

社会医学系には「社会生命科学」、臨床医学系には「発
育・加齢医学」の2つの大講座があり、さらに4つの協力講
座と1つの連携講座で構成される。

● 組織

大講座名	専門分野	担当教授
社会生命科学 Social Life Science	法医・生命倫理学 Legal Medicine and Bioethics	石井 晃 教授 ISHII, Akira
	環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health	那須 民江 教授 NASU, Tamie
	予防医学 Preventive Medicine	濱嶋 信之 教授 HAMAJIMA, Nobuyuki
	国際保健医療学・ 公衆衛生学 Public Health and Health Systems	青山 温子 教授 AOYAMA, Atsuko
	医療行政学 Healthcare Administration	坂本 純一 教授 SAKAMOTO, Junichi
発育・加齢医学 Medicine in Growth and Aging	小児科学 Pediatrics	小島 勢二 教授 KOJIMA, Seiji
	成長発達医学 Developmental Pediatrics	
	発達・老年精神医学 Developmental and Geriatric Psychiatry	
	地域在宅医療学・ 老年科学 Community Healthcare and Geriatrics	葛谷 雅文 教授 KUZUYA, Masafumi
	産婦人科学 Obstetrics and Gynecology	吉川 史隆 教授 KIKAWA, Fumitaka
	生殖器腫瘍制御学 Reproductive Oncology	
	総合診療医学 Family and Community Medicine	病院 総合診療科 伴 信太郎 教授 BAN, Nobutaro
周産母子医学(協力) Maternal and Perinatal Care	周産母子医学 Maternal and Perinatal Care	病院 周産母子センター
親と子どもの 精神医学(協力) Psychiatry for Parents and Children	親と子どもの心療学 Child and Adolescent Psychiatry	病院 親と子どもの心療科 本城 秀次 教授 HONJOH, Shuji
総合管理医学(協力) Comprehensive Ambulatory Medicine	予防医療学 Clinical Preventive Medicine	病院 予防医療部
	医療経営管理学 Hospital Management Strategy and Planning	
	総合医学教育学 Medical Education	医学部附属 総合医学教育センター 植村 和正 教授 UEMURA, Kazumasa
	医療安全管理学 Quality and Patient Safety	病院 医療の質・安全管理部 長尾 能雅 教授 NAGAO, Yoshimasa
健康増進医学(協力) Health Promotion Medicine	健康栄養医学 Human Nutrition	石黒 洋 教授 ISHIGURO, Hiroshi
	健康スポーツ医学 Sports Medicine	総合保健体育 科学センター 押田 芳治 教授 OSHIDA, Yoshiharu
	精神健康医学 Psychopathology and Psychotherapy	小川 豊昭 教授 OGAWA, Toyoaki
疫学(連携) Epidemiology	疫学 Epidemiology	愛知県がんセンター 研究所 田中 英夫 客員教授 TANAKA, Hideo
		近藤 英作 客員教授 KONDOH, Eisaku

(2011年4月1日現在)

研究科長直属 大学院コース

研究志向の強い医師が、医学部卒業直後に臨床講座に所属せず大学院に入学し、早期に研究に専念できるコース（下図①参照）。研究科長が指導責任者として、基礎講座、臨床講座と連携して総合的な教育プログラムに参画する。必要があれば経済的な援助も行われる。大学院医学系研究科3年次編入者は、本コースへの入学を原則とする。

● 対象者

医学部卒業直後、または卒後研修修了直後および、その2年後までの医師。

● 選抜方法

大学院医学系研究科出願時に希望をとり、受験資格審査と並行して意志の確認、選抜を行う。願書には基礎医学セミナーまたは臨床実習の指導教官などからの推薦状を添付する。大学院医学系研究科入学者の中から毎年10名程度内。

研究者養成特別コース (MD・PhDコース)

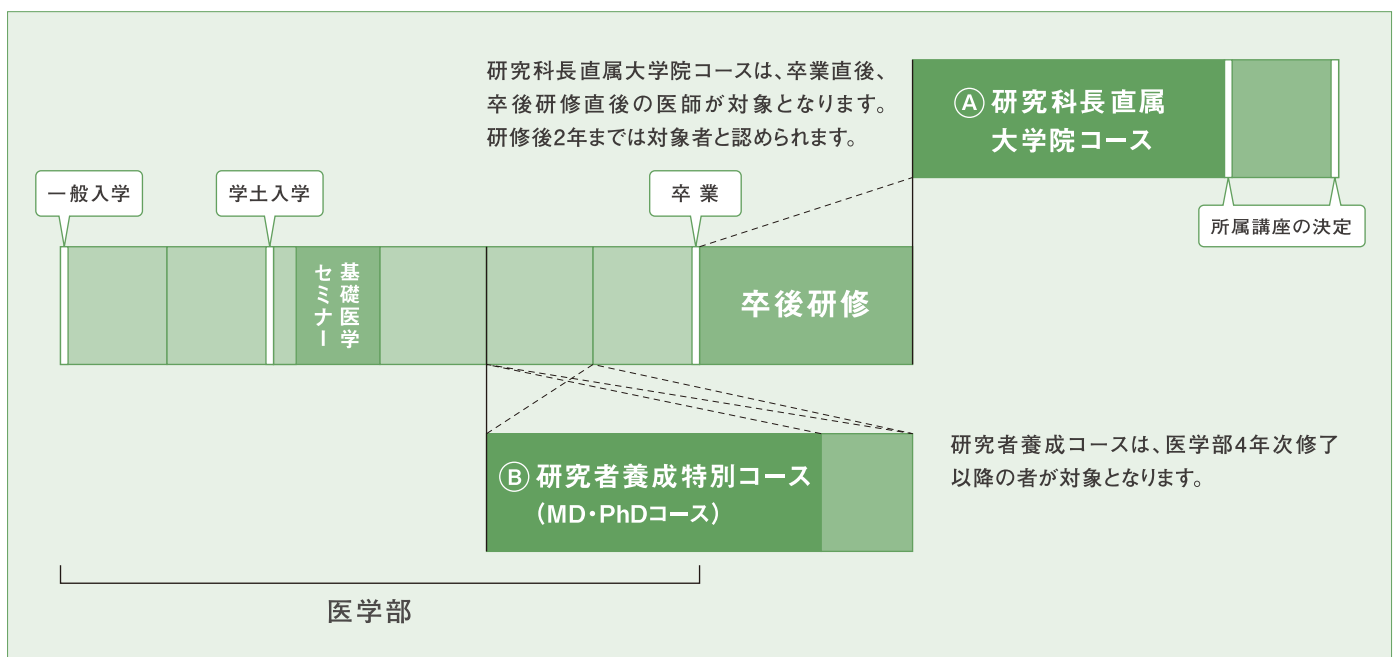
研究志向の強い医学部生が、大学院に飛び入学して、非常に早い時期に研究を体験できるコース（下図②参照）。医学部の4年次または5年次を修了時にいったん休学して大学院で指導を受け、医学博士号（PhD）の取得を目指す。その後、医学部に復学して医学士（MD）になることも可能。

● 対象者

4年次または5年次を修了し、成績優秀かつ研究志向の強い名古屋大学医学部医学科生。各学年で毎年数名程度内。

● 選抜方法

基礎医学セミナー指導教官の推薦を受け、委員会で審査。



近隣に所在する、強い特色のある優れた諸研究機関と連携して、独自性があり、より高い成果を目指す研究に取り組む連携大学院。現在、名古屋大学大学院医学系研

究科全体として4つの研究機関との間での連携が進行中であり、大学院医学系研究科の4専攻それぞれに1～2講座、合計で6つの連携講座がある。

老化基礎科学

Aging Research

所属	分子総合医学専攻	設置	2000年9月1日
連携先	国立長寿医療研究センター研究所		
担当教員	丸山 光生 客員教授 MARUYAMA, Mitsuo 柳澤 勝彦 客員教授 YANAGISAWA, Katsuhiko		

老化あるいは高齢期疾患に対し、老化関連遺伝子に注目して、分子・細胞レベルで起こるメカニズムを深く理解し、解明への糸口をつかむ研究の最先端を推進。また基礎研究からの臨床応用への試みとして、アルツハイマー病に対する新しい抗種(seed)医薬の開発についても積極的に取り組む。

免疫不全統御学

AIDS Research

所属	分子総合医学専攻	設置	2009年4月1日
連携先	国立病院機構名古屋医療センター		
担当教員	杉浦 互 客員教授 SUGIURA, Wataru		

AIDS/HIV感染症は、抗ウイルス薬剤治療の進歩によって予後は大きく改善されたが、まだ根治には至らない。本講座では、AIDS/HIV感染症に対しての宿主(ヒト)の対処と、ウイルスの薬剤に対する耐性化の機序を、分子レベルで解明するための研究に取り組む。

神経生化学

Neurochemistry

所属	細胞情報医学専攻	設置	1999年4月1日
連携先	愛知県心身障害者コロニー		
担当教員	中山 敦雄 客員教授 NAKAYAMA, Atsuo 永田 浩一 客員教授 NAGATA, Koichi		

本講座は、連携先の愛知県心身障害者コロニー内に設置されている。発達障害の予防・治療を念頭に置いて、神経系の発生と発達を制御する機構についての研究を行う。「細胞極性関連蛋白質の作用機序と神経発達」など3つの主な研究分野がある。

細胞工学

Cancer Genetics

所属	機能構築医学専攻	設置	2000年5月29日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	瀬戸 加大 客員教授 SETO, Masao 関戸 好孝 客員教授 SEKIDO, Yoshitaka		

がんセンター中央病院と連携して血液腫瘍の研究を行う。血液腫瘍では、その「成因や分類あるいは病気の進行」と「ゲノム(染色体)や遺伝子の異常」との間に密接な関係があり、この関係を明らかにすることを通じてヒトの腫瘍を遺伝学的・分子生物学的により深く理解することを目指す。

細胞腫瘍学

Cellular Oncology

所属	機能構築医学専攻	設置	2007年4月1日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	稲垣 昌樹 客員教授 INAGAKI, Masaki 葛島 清隆 客員教授 KUZUSHIMA, Kiyotaka		

がんに対する免疫応答には未知の部分が多く、臨床研究と基礎研究とをバランスよく推進することが重要である。この考えのもと、ヒトの免疫担当細胞を用いた非臨床研究、がんセンター中央病院および全国の大学などとの臨床研究が一体となった活動を推進している。

疫学

Epidemiology

所属	健康社会医学専攻	設置	1998年10月29日
連携先	愛知県がんセンター研究所		
担当教員	田中 英夫 客員教授 TANAKA, Hideo 近藤 英作 客員教授 KONDOH, Eisaku		

2007(平成19)年度に愛知県は「愛知県がん対策推進計画」を策定し、その中で、がんの死亡率(75歳未満)を10年間で自然減を含めて20%低下させる目標を設定。この目標の実現に貢献するべく、本講座では分析疫学、予防介入疫学および記述疫学の研究を推進している。

(2011年4月1日現在)

奨学を目的とした民間企業などからの寄附金により、名古屋大学の主体性のもとに設置される講座。それぞれのテーマに沿って、教育・研究の豊富化や活発化が図られ

ている。講座の名称はそこでの教育・研究のテーマを示し、寄附者が希望した場合は、寄附者名がつけられる。大学院医学系研究科には、現在11の寄附講座がある。

腎不全総合治療学寄附講座

Department of Renal Replacement Therapy

設置 2010年2月1日

担当教員 伊藤 恭彦 (寄附講座教授) ITOH, Yasuhiko

日本で29万人に達する慢性腎不全患者。血液透析、腹膜透析、腎移植それぞれの方法の利点を生かす総合的な腎不全管理を行うことは、強い社会的ニーズである。我々は2005年より5年間このテーマでの治療研究を推進してきたが、2010年2月より現在の講座名とし、当地区における腎不全医療のさらなる活性化を図り、また当地区で確立しつつある教育プログラムを全国の医療関係者に展開していく。

代謝病態学寄附講座

Department of Metabolic Medicine

設置 2010年10月1日

担当教員 濱田 洋司 (寄附講座准教授) HAMADA, Yoji

生活習慣病は世界的に重大な社会問題であり、特に注目されるメタボリックシンドロームは、内臓肥満を基礎として動脈硬化症の危険因子が重積した病態である。本講座はこのメタボリックシンドロームを主な研究対象とし、その分子機構の解明および新たな治療標的の発見と薬剤の開発を目的とする。このテーマは同時にほかの生活習慣病の病態解明にもつながり、それらの画期的な治療法の確立も目指す。

消化器疾患先端研究寄附講座

Department of Advanced Research of Gastroenterology

設置 2011年1月1日

担当教員 石黒 和博 (寄附講座准教授) ISHIGURO, Kazuhiro

消化器内科分野における難治性疾患の病態解明と、新しい治療法・検査法の開発が本講座の目的である。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患、肝疾患、悪性腫瘍などの病態を分子レベルで解明し、その知見を新しい治療法・検査法の開発に応用。また研究を支援する、新しい動物モデルやツールの開発も行っている。

(2011年4月1日現在)

造血細胞移植情報管理・生物統計学 (日本造血細胞移植学会) 寄附講座

Department of HSCT Data Management and Biostatistics
Endowed Chair: The Japan Society for
Hematopoietic Cell Transplantation

設置 2009年1月1日

担当教員 鈴木 律朗 (寄附講座准教授) SUZUKI, Ritsuro

日本における造血細胞移植全国調査を担当し、登録率の向上、情報の精度向上を図る講座。全国調査から得られた結果の公表および活用を日本造血細胞移植学会の承認のもと、日本小児血液学会、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークなどとの共同で行う。造血細胞移植医療に関する臨床試験などの支援を通して、わが国での移植医療のさらなる向上を目指す。また、アジア地域での造血細胞移植医療の向上にも貢献する。

分子循環器学(興和) 寄附講座

Department of Molecular Cardiology
Endowed Chair: Kowa

設置 2010年7月1日

担当教員 大内 乗有 (寄附講座教授) OHUCHI, Noriyuki

近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、その治療法確立は社会的ニーズの高い課題である。本講座では、メタボリックシンドローム・動脈硬化・虚血性疾患をはじめとした生活習慣病の病態生理、特にアディポサイトカイン・マイオカインなどの分泌因子の生理病態学的意義を細胞・個体レベルで解明。これら独自の基礎研究をベースとして、新しい治療法確立と、創薬開発につながる道筋を拓くことを目指す。

免疫機能制御学寄附講座

Department of Applied Immunology

設置 2007年4月1日

担当教員 小林 孝彰 (寄附講座教授) KOBAYASHI, Takaaki

現在、日本の臓器移植医療が抱える多くの課題を解決すべく、既成セクションにとらわれずに幅広く研究協力関係を築き、移植医療に役立つ基盤研究を推進する講座。臨床と密接に関連した研究を行い、直接、移植患者の治療に応用できる情報を提供。新たなる研究コミュニティーを創出し、人材の育成、知的成果の産出をめざし、日本の移植医療の発展に貢献する。

CKD(慢性腎臓病) 地域連携システム寄附講座

Department of CKD Initiatives
Regional cooperative system

設置 2008年11月1日

担当教員 安田 宜成 (寄附講座准教授) YASUDA, Yoshinari

現在、日本の慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease: CKD)患者数は約1330万人であり、末期腎不全の予備軍であるばかりではなく、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患の重大な危険因子となっていることから、その対策が緊急の課題となっている。CKD治療ではかかりつけ医と専門医の連携が重要だが、システムは未確立なのが現状である。本講座は、有効な診療および治療システム構築を推進し、日本のCKD対策強化を目指している。

尿毒症病態代謝学寄附講座

Department of Advanced Medicine for Uremia

設置 2009年4月1日

担当教員 丹羽 利充（寄附講座教授） NIWA, Toshimitsu

尿毒症の病態代謝を、おもに尿毒症毒素の観点から解明し、合併症の予防・制御法の科学的基盤確立を図る講座。これまで、尿毒症の進行因子として、尿毒症毒素であるインドキシル硫酸などの食事由来のタンパク代謝物が関与していることを明らかにしてきた。その分子メカニズム、特に細胞内情報伝達についてさらに詳細に解明する。また、動脈硬化などの合併症の分子メカニズムの解明なども目指す。

医療システム管理学寄附講座

Study of Medical System Management

設置 2009年4月1日

担当教員 杉浦 伸一（寄附講座准教授） SUGIURA, Shinichi

先端領域イノベーション創出拠点として、「手のひらに名医・大病院を」を合い言葉に、IT技術を活用した予防・早期医療の新システム構築を目指す講座。GPSを活用した地理的医療情報システム（Geographic Medical Information System: GMIS）、携帯電話などを利用したユビキタス移動体インフラ（Ubiquitous Mobile Infra Structure: UMIS）の社会的実証研究などを行っている。

外科感染症学寄附講座

Department of Surgical Infection

設置 2009年10月1日

担当教員 菅原 元（寄附講座講師） SUGAWARA, Gen

周術期感染症の中でも、創感染は単純な合併症であるが、処置には苦痛を伴う上、在院日数の延長にもつながる大きな問題である。しかし、術後の創感染症を対象としたエビデンスレベルの高い介入研究は少ない。本講座では、創閉鎖のベストプラクティスの同定をゴールに定め、創感染症の前向きな調査、リスク同定、創閉鎖方法の無作為比較試験を行う。

地域医療教育学寄附講座

Department of Education for Community-Oriented Medicine

設置 2009年10月1日

担当教員 安井 浩樹（寄附講座准教授） YASUI, Hiroki

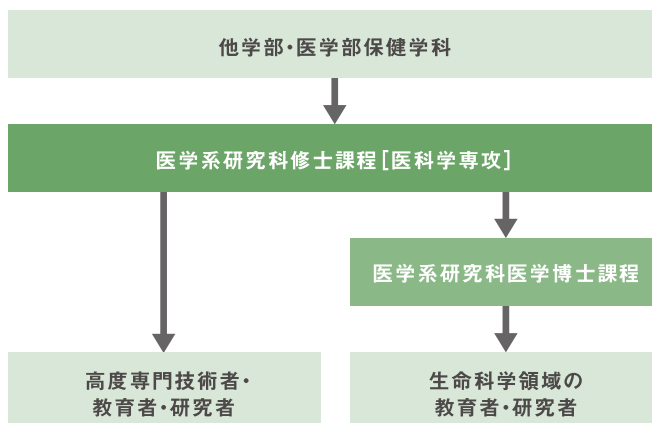
愛知県、名古屋市立大学地域医療教育センター、名古屋大学大学院医学系研究科の三者が共同して、地域医療を守り創造する新たな取り組みを進めるのが本講座。「地域の医療ニーズ調査・政策提言」「啓発活動・相互理解の推進」「地域ニーズ志向型医療人の育成」を、活動の3本の柱とする。

（2011年4月1日現在）

医科学専攻

入学定員
20名

医・歯・獣医学科以外の学部を卒業した上でその分野と医学分野とを融合的に探求しようとする学生に、モデルコースを設定して医学の基礎と応用法を学ばせる専攻。卒業後、技術者・教育者などを目指す、または医学博士課程に進んだ上で教育者・研究者などを旨す(右図参照)ための高度な専門知識・技術を教育する。



履修のモデルコース

コース名	主要科目	内容
遺伝子医学コース	生化学 病理学 免疫学	遺伝子治療、遺伝子診断など分子生物学と臨床医学の接点にある研究課題について、新しいベクターの導入法、有効な診断法などの研究を行い、これらの研究・技術開発に携わる人材の養成を目的とする。
細胞医学コース	解剖学 生理学 薬理学	細胞の微細構造と機能の連関、細胞の刺激受容・応答機構、細胞内シグナル伝達機構、細胞への薬剤作用機構等の分子メカニズムあるいは細胞システムとしての組織や個体の機能や情報伝達機構の研究を行い、これらの研究・技術開発に携わる人材の養成を目的とする。
医用工学・ 医療情報学コース	医療情報学 生理学	広く医療および医学研究に用いられている機器の製造・開発の関連産業、あるいは製造食品産業などにおける生理学・薬理学・病理学・解剖学・生体工学などの研究に従事する研究・技術者のほか病院における、メディカルエレクトロニクス・メディカルエンジニアリング・補綴機器開発・医用情報管理に従事する医科学の専門的技術と知識を有する高度技術者の養成を目的とする。
医療薬学コース	医療薬学	大学薬学部卒業生であって、医学・医療の専門的知識を要する臨床治験をコーディネートするクリニカルリサーチコーディネーター、治験の評価や監査を行うモニタリング・監査担当者、あるいは薬物療法を主体に患者にファーマシューティカルケアを行う臨床薬剤師の養成を目的とする。
人間生態環境学コース	微生物学 免疫学	人間は絶えず微生物・寄生虫との戦いの中で健康を保ち、生命を維持してきた。効果の高い抗生物質・駆虫薬の発見により人類は、感染を克服できるかに見えたが、耐性菌による難治感染症の出現、アトピーの多発など、新たな問題を生じている。一方、環境ホルモンやオゾン層破壊のような地球環境変動と健康の問題が浮上してきた。人間と微生物・寄生虫などのさまざまな環境因子との関係を生態系として考え、食品産業・健康医療産業・行政分野で活躍できる人材の養成を目的とする。
健康増進・ スポーツ医学コース	社会医学 生理学	高度情報化社会や車社会への移行にともなって生活習慣病といわれる病気が増えている。その予防・克服のために運動療法が使われるようになり、主治医と密接に連携して適切な処方指導のできる人材の需要が高まっている。また、質の良い活動的な老後人生への意欲が高まるなか、福祉施設でこれらの人材の需要も強くなってきた。これらの人材の養成を目的とする。
医療マネジメント学コース	社会医学 医療情報学	医療関連企業の経営や国または地方自治体の行政、あるいは国際協力事業などの業務においてリーダーシップを発揮するために、医学および医療の基礎知識を有し、なおかつ、医療システム・医療経営管理などマネジメントの何たるかを知り、社会医学的研究方法に通じた職業的専門家の養成を目的とする。

医科学専攻 医療行政コース

Young Leaders' Program (YLP)

入学定員
10名

Young Leaders' Program (YLP) は、アジアおよび東ヨーロッパなどの将来のナショナルリーダーの養成に貢献するとともに、日本に対する理解を深めることを通じて、世界各国指導者層の間にネットワークを創り、日本を含む諸国間の友好関係の構築、政策立案機能の向上に寄与することを目的とするもので、日本政府(文部科学省)の国費外国人留学生制度のひとつである。

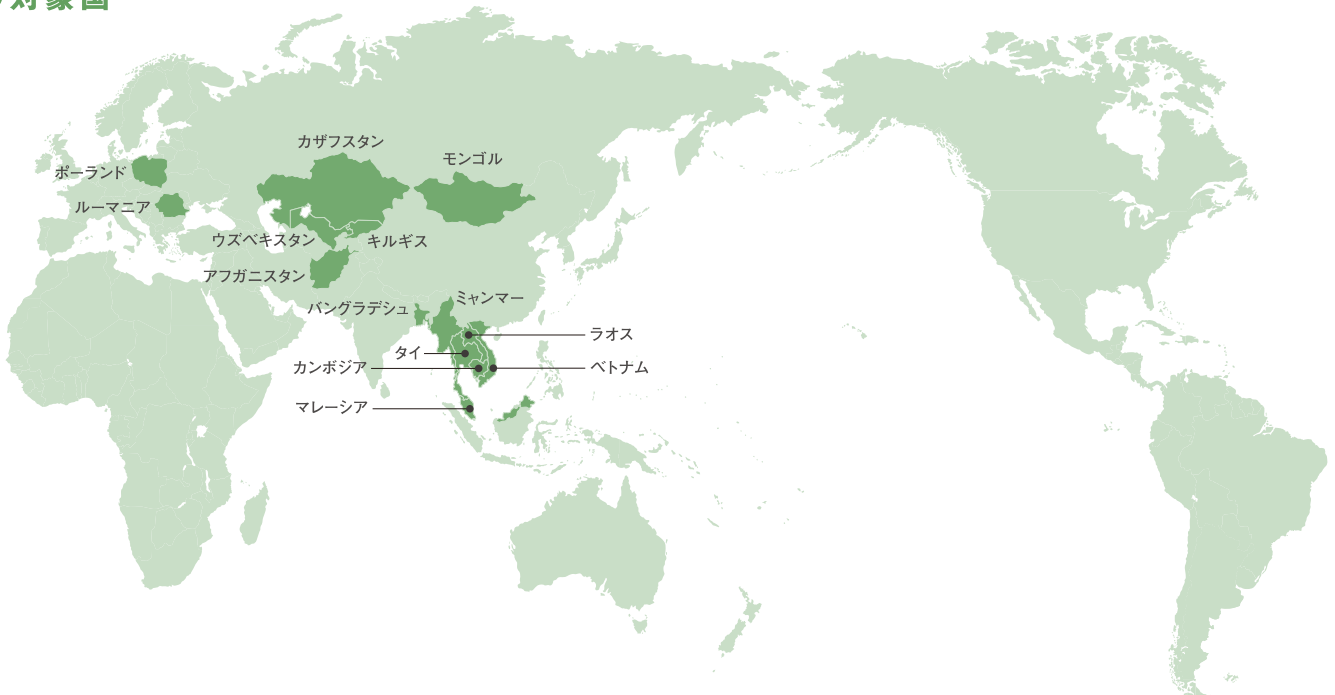
開講時期は10月で修学期間は原則1年、修了時に「修士」の学位を授与する。講義はすべて英語で行っている。欧米ともアジア諸国とも交流の深い日本の利点を活用して、人的ネットワークを創造できる将来のナショナルリーダー育成にふさわしい多彩なカリキュラムを組んでいる。その例としてあげられるのが、医療行政にかかわりのある各分野の専門家による特別講義、インターンシップ、学外研

修であり、海外講師による講演もたびたび実施している。Young Leaders' Program (YLP) のもうひとつの特徴は論文作成に重点を置いていることである。1年という極めて短い期間に修士論文を英語で書きあげ、英文で発行されている国際的ジャーナルに投稿することを学生に求めている。国際的ジャーナルに受理されるレベルの論文を作成することを目標として論文の書き方を体得し、論文のプレゼンテーションを行う能力を養うことができるようにカリキュラムを設定している。修士論文が国際的ジャーナルに受理されれば本人のみならず、名古屋大学・留学生の出身国にとっても、また、情報のシェアという観点から見れば、世界的にも貴重な財産と成り得るからである。

本プログラムの修了生たちは、出身国の保健省など医療分野を担当する省庁や、WHOなどの国際機関で活躍している。Young Leaders' Program (YLP) の対象国は下図の14カ国であり、募集は対象国の在外公館を通してのみ行っている。(名古屋大学への直接応募は行っていない)

関連資料 本冊子 P.31・33 / 「医をつなぐ。」 P.25-26

● 対象国



Young Leaders' Program (YLP) について詳しくは

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/ylp/jp/index.html>

名古屋大学医学部医学科は、豊かな人間性・高い倫理性・科学的論理性をそなえ、創造性に富む医師・医学研究者を養成することを目標とした、6年間一貫教育の学科。1998年～2000年に行われた大学院医学系研究科の

改組を受けて、医学部教員はすべて大学院教員が兼務。高い専門性を持つ医師・研究者でもある大学院教員たちが、医学科学生のために作られた詳細な授業計画(シラバス)に則って、充実した教育を行っている。

● カリキュラム

1年生	前期	全学教育科目 (講義・実習・演習) [基礎科目(理系・文系・全学)] [教育科目(理系・文系・全学)]		医学入門
	後期			
2年生	前期	基礎医学 (講義・実習)		
	後期			
3年生	前期	基礎医学セミナー		
	後期			
4年生	前期	社会医学 (講義・実習)		
	後期	臨床医学 (チュートリアル・講義・基本的臨床技能実習)		社会医学 (講義)
5年生	前期	臨床実習		臨床病理学実習
	後期			
6年生	前期	選択実習		
	後期	卒業試験		

附属施設

名古屋大学附属図書館医学部分館は、鶴舞キャンパスに所在し、医学部・医学系研究科の学生、院生、研究者、附属病院の医療関係者を主な利用対象者とする。従来の図書館資料の提供のほかに電子ジャーナル、電子教科書、各種データベースなど新しい電子資料の導入、各種ガイダンスや講習会開催、PCコーナーの設置、Nagoya Journal of Medical Scienceおよび欧文業績

名古屋大学附属図書館医学部分館

録の編集とwebでの公開など、教育・研究の支援サービスを提供。館内4階にある医学部史料室では、名古屋大学医学部の歴史を東海地区のなかで位置づけ将来を展望する場として、医学部および関連資料を展示・保存し、webで公開している。

▶ 附属図書館医学部分館 独自ホームページ
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/>

附属施設

神経疾患と悪性腫瘍という、2つの特定領域医療の発展を図るセンター。疾患の発症機序の解明・モデル動物の作製・新しい遺伝子診断法の開発・分子標的治療法の

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 2003年4月1日設置

開発など、社会的要請の強い研究を系統的に推進し、得られた成果を高度先端医療へ橋渡しする、国際的にも存在意義の高い拠点を目指す。

部門	分野	概要	担当教員
腫瘍病態統御部門 Department of Oncology 遺伝子変異による発癌機構や癌細胞の浸潤・転移の分子機構を解明する。	分子腫瘍学 Division of Molecular Carcinogenesis	がんの分子病態を統合的に解明し、難治がんの革新的診断・治療法を開発する。	高橋 隆 (教授) TAKAHASHI, Takashi
	腫瘍生物学 Division of Cancer Biology	がん遺伝子・がん抑制遺伝子による発癌の分子メカニズムを解明する。	千賀 威 (准教授) SENGA, Takeshi
発生・再生医学部門 Department of Development 神経細胞の発生・分化および腎臓の発生の分子機序に関する研究を行う。	分子病理学 Division of Molecular Pathology	神経栄養因子による神経細胞の生存分化機構・腎臓の発生に関する研究を行う。	高橋 雅英 (教授) TAKAHASHI, Masahide
	神経情報薬理学 Division of Neuroscience	神経細胞の極性形成・軸索ガイダンス・シナプス形成の分子機構を解明する。	貝淵 弘三 (教授) KAIBUCHI, Kozo
先端応用医学部門 Department of Advanced Medical Science 悪性腫瘍・神経変性疾患の病態解明・モデル動物の作製・治療の開発を行う。	機能分子制御学 Division of Molecular Biochemistry	癌細胞や神経細胞の増殖・分化・死の制御機構を解明し、難病の新しい治療法の開発を目指す。	古川 鋼一 (教授) FURUKAWA, Koichi
	分子標的治療学 Division of Molecular Mycology and Medicine	細胞分裂に関わる遺伝子を中心にがん化学療法の標的分子について分子遺伝学的・細胞生物学的研究を行う。	中川 善之 (准教授) NAKAGAWA, Yoshiyuki
	疾患モデル解析学 Division of Disease Models	遺伝子組み換えマウスなどを用いて、疾患モデル動物を作製し、その病因解明と治療法の確立を目指す。	武井 佳史 (准教授) TAKEI, Yoshifumi
	神経遺伝情報学 Division of Neurogenetics	神経筋接合部の病態分子機構解明と病態制御研究を行うとともに各種神経疾患におけるスプライシング異常症の分子機構を解明する。	大野 欽司 (教授) OHNO, Kinji

附属施設

附属医学教育研究支援センター

2004年5月1日設置

4部門からなる本センターは、約25年前に設立された実験動物部門と分析機器部門を母体とし、2004年に統合された。研究設備の集約と、技術職員の集中配置によっ

て、高度化・多様化する研究ニーズに対応。大学院医学系研究科と医学部の教育・研究を広く支援している。

部門	概要	
実験動物 Division for Research of Laboratory Animals	大学院医学系研究科と附属病院とで必要とされる動物実験を集中的に管理する部門。動物福祉の観点から適正で、なおかつ科学的に評価される動物実験が可能な環境を整えている。	関連資料 本冊子 P.38
分析機器 Division for Medical Research Engineering	大学院医学系研究科における、各種分析・計測機器の共同利用のための部門。研究室ごとに機器を分散させずに一カ所に集中させることで、最先端機器をより有効に活用できる。名古屋大学他学部・学外からも利用可能。	関連資料 「医をつなぐ。」 P.17-18
先端領域支援 Division for Advanced Medical Research	将来の基礎系後継者養成を目的とする部門。	
特任研究 Division for Designated Research	大学院医学系研究科における研究・教育の積極的かつ機動的な展開・推進および充実を図るため、外部からの受け入れ資金を活用して形成する部門。	

附属施設

附属総合医学教育センター

2005年8月1日設置

医学部教育委員会や附属病院と緊密に連携し、医学教育や医療職の養成に関する研究を行い、医学生や病院医療職の技能や態度の教育プログラムを開発・展開するセンター。

もうひとつの重要な業務として、スキルス&ITラボラトリー

の管理・運営を行う。当ラボは医学部学生・研修医・病院スタッフ年間のべ約2万人以上に利用されており、これは日本一の頻度。医療に関する技能やその他の能力を客観的に評価する標準化試験であるOSCEの前には、医学生からの利用予約が殺到している。

担当教員 植村 和正（教授） UEMURA, Kazumasa

関連資料 本冊子 P.38 / 「医をつなぐ。」 P.12

大幸キャンパス

大学院医学系研究科 博士課程

医学部 保健学科

名古屋市東区の名古屋大学大幸キャンパスには、
大学院医学系研究科博士課程と
医学部保健学科がある。

医学科や附属病院などと連携しながら、
看護・医療技術・リハビリテーションという
コメディカル分野の教育・研究を
総合的に推進している。

大学院医学系研究科 博士課程

医療テクノロジーや社会構造の進展にともなって変化する保健医療システムにおいて、高度な専門知識をもとに、臨床・管理・政策立案などでリーダーシップを発揮しうる医療従事者の養成を進めるとともに、学際的かつ先駆的な研究によって、保健科学分野における学術研究を推進する優れた研究者・教育者の養成にも重点を置く。

医学部保健学科

変化する社会情勢のもと、コメディカル分野も高度化・複雑化し続けている。それに対応し、医療技術科学を学問領域として確立させることを基本姿勢として、優れた医療技術者・教育者・研究者を育成することを目指す。

医学系研究科	博士課程	看護学専攻	24
		医療技術学専攻	24
		リハビリテーション療法学専攻	24
医学部	保健学科		25

看護学専攻

入学定員 [前期] 18名 [後期] 6名

前期課程		後期課程	
基礎看護学	Fundamentals of Nursing	健康障害看護学	Nursing for Health Risk
臨床看護学	Clinical Nursing	健康発達看護学	Nursing for Developmental Health
発達看護学	Human Development Nursing and Midwifery		

人間の尊厳を尊重し、高度な専門性を保有する保健医療専門職業人を養成する。さらに医療技術科学分野において、エビデンスに基づいた学問を構築するための独創的かつ探求心に富む研究者・教育者の養成も目指す。

医療技術学専攻

入学定員 [前期] 20名 [後期] 7名

前期課程		後期課程	
医用量子科学	Radiological Sciences	医用量子科学	Radiological Sciences
病態解析学	Pathophysiological Laboratory Sciences	病態解析学	Pathophysiological Laboratory Sciences

人体の情報を、マクロ的見地とミクロ的見地からアプローチし、理解する研究者および教育者の育成を第一に考え、さらに医学物理士をはじめとする高度な専門職業人育成も図る。

リハビリテーション療法学専攻

入学定員 [前期] 10名 [後期] 4名

前期課程		後期課程	
理学療法学	Physical Therapy	リハビリテーション療法学	Physical and Occupational Therapy
作業療法学	Occupational Therapy		

変化する医療状況に十分対応できる研究者・高度職業人の育成を図る。さらに、さまざまな医療現場やほかの学問領域との連携など、多様で活力のある教育システムを作り、新しい研究領域を創設することも目指す。

医療技術科学を学問領域として確立し、その科学・技術・実践技術を教育・研究し、幅広い基礎と高度な専門知識および問題解決能力、人間性豊かな資質を備えた医療

技術者・教育者・研究者を育成することを目指す。

5専攻12講座を有し、基礎から専門まで4年間一貫教育を行う。

● 組織

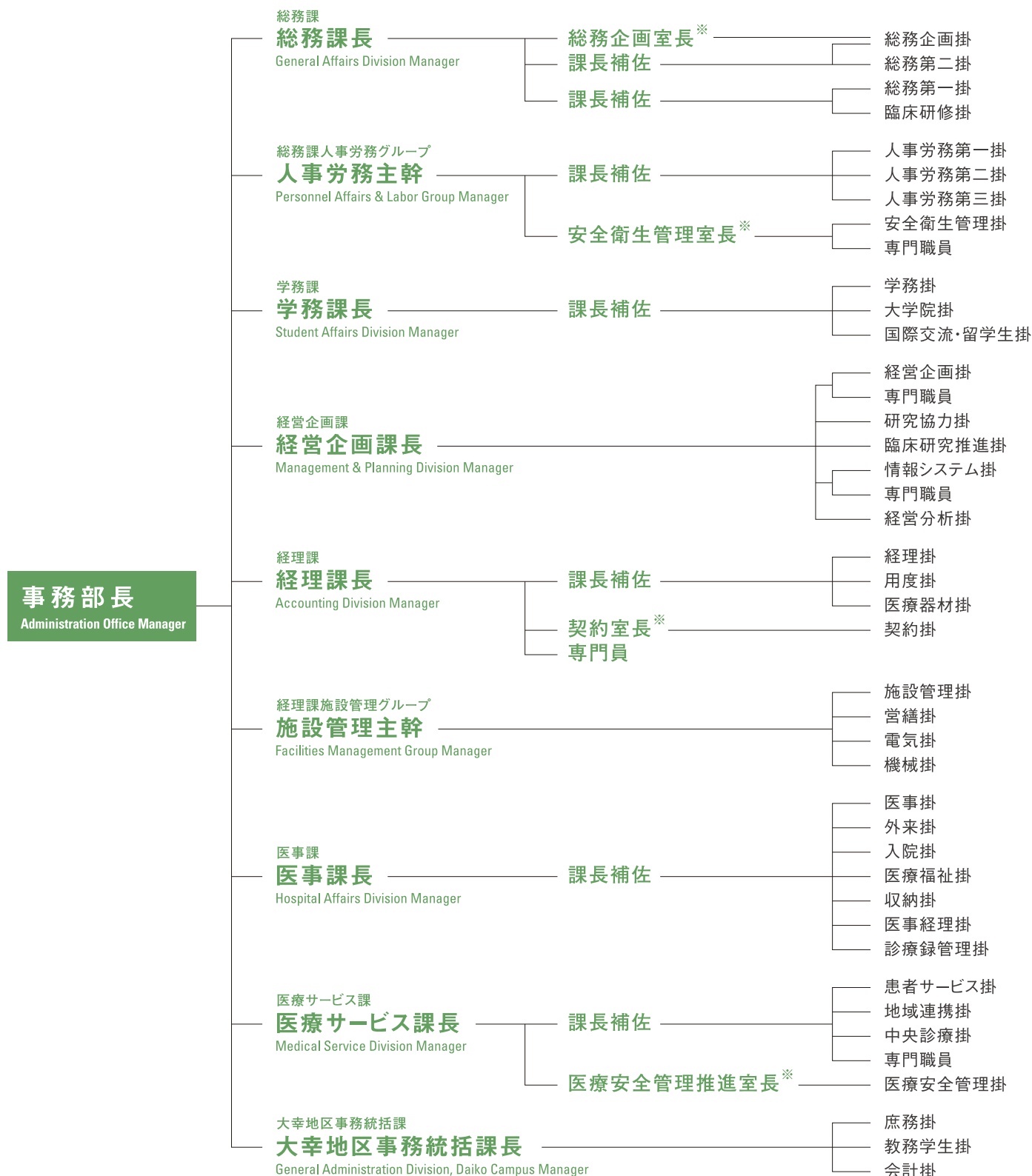
専攻名	講座名	担当教授
看護学専攻 Department of Nursing (入学定員 80名)	基礎看護学 Fundamentals of Nursing	玉腰 浩司 教授 TAMAKOSHI, Koji
		山内 豊明 教授 YAMAUCHI, Toyoaki
		太田 勝正 教授 OHTA, Katsumasa
		藤本 悦子 教授 FUJIMOTO, Etsuko
	臨床看護学 Clinical Nursing	堀 容子 教授 HORI, Yoko
		池松 裕子 教授 IKEMATSU, Yuko
		安藤 詳子 教授 ANDOH, Shoko
		奈良間 美保 教授 NARAMA, Miho
	発達看護学 Human Development Nursing and Midwifery	浅野 みどり 教授 ASANO, Midori
		鈴木 和代 教授 SUZUKI, Kazuyo
		榊原 久孝 教授 SAKAKIBARA, Hisataka
		梶田 悦子 教授 KAJITA, Etsuko
地域・在宅看護学 Public Health and Home Care Nursing	前川 厚子 教授 MAEKAWA, Atsuko	
	平井 眞理 教授 HIRAI, Makoto	
	池田 充 教授 IKEDA, Mitsuru	
	青山 隆彦 教授 AOYAMA, Takahiko	
放射線技術科学専攻 Department of Radiological Technology (入学定員 40名)	基礎放射線技術学 Basic Radiological Technology	磯田 治夫 教授 ISODA, Haruo
		小幡 康範 教授 OBATA, Yasunori
		小寺 吉衛 教授 KODERA, Yoshie
		加藤 克彦 教授 KATOH, Katsuhiko
	医用放射線技術学 Medical Radiological Technology	島本 佳寿広 教授 SHIMAMOTO, Kazuhiro
		石樽 信人 教授 ISHIGURE, Nobuhito
		石川 哲也 教授 ISHIKAWA, Tetsuya
		涌澤 伸哉 教授 WAKUSAWA, Shinya
検査技術科学専攻 Department of Medical Technology (入学定員 40名)	基礎検査学 Basic Medical Technology	近藤 高明 教授 KONDOH, Takaaki
		川部 勤 教授 KAWABE, Tsutomu
		永田 浩三 教授 NAGATA, Kozo
		村手 隆 教授 MURATE, Takashi
	病因・病態検査学 Medical Laboratory Technology	小嶋 哲人 教授 KOJIMA, Tetsuhito
		長坂 徹郎 教授 NAGASAKA, Tetsuro
		河村 守雄 教授 KAWAMURA, Morio
		鳥橋 茂子 教授 TORIHASHI, Shigeko
理学療法専攻 Department of Physical Therapy (入学定員 20名)	基礎理学療法学 Basic Physical Therapy	鈴木 重行 教授 SUZUKI, Shigeyuki
		山田 純生 教授 YAMADA, Sumio
	病態理学療法学 Applied Physical Therapy	内山 靖 教授 UCHIYAMA, Yasushi
		鈴木 國文 教授 SUZUKI, Kunifumi
作業療法専攻 Department of Occupational Therapy (入学定員 20名)	基礎作業療法学 Basic Occupational Therapy	寶珠山 稔 教授 HOHSHIYAMA, Minoru
		辛島 千恵子 教授 KARASHIMA, Chieko
	病態作業療法学 Applied Occupational Therapy	澤田 雄二 教授 SAWADA, Yuji

(2011年4月1日現在)

データ集

事務部組織図	28
職員数	29
学生定員および現員	30-31
医学系研究科	
医学部	32
医学系研究科修了者数	33
医学部卒業生数／学位(医学博士)授与者数	34
外国人留学生・外国人研究員等	35
国際交流協定による派遣学生数および受入学生数	36
医学部・医学系研究科からの国別海外留学者数	37
名古屋大学附属図書館医学部分館／スキルス&ITラボラトリーの使用状況／解剖体数	38
産学官連携に関するデータ 知的財産	39
産学官連携に関するデータ 共同研究・受託研究	40
ニュースリリース	41
鶴舞公開講座	42

事務部組織図



名古屋大学附属図書館医学部分館

Nagoya University Medical Library



*は所属課課長補佐が兼務

職員数

区分		大学院医学系研究科	医学部	保健学科
教育職	教授 Professor	50 (4)	0	39
	准教授 Associate Professor	53 (12)	0	17
	講師 Lecturer	10 (19)	0	3
	助教 Assistant Professor	42 (47)	0	29
	助手 Research Associate	2	0	0
	研究員 Researcher	0 (7)	0	0
	教務職員 Research Assistant	0	0	1
小計		157 (89)	0	89
一般職	事務系職員 Administrative Staff	151		
計		397 (89)		

[注] ()は特任教員を外数で示す。

(2011年4月1日現在)

学生定員および現員

大学院医学系研究科

[医学博士課程]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
分子総合医学専攻 Program in Integrated Molecular Medicine	1年	52	45	20	65
	2年	52	35	19	54
	3年	52	32	9	41
	4年	34	42	9	51
小計		190	154	57	211
細胞情報医学専攻 Program in Cell Information Medicine	1年	43	23	10	33
	2年	43	33	8	41
	3年	43	35	10	45
	4年	39	40	10	50
小計		168	131	38	169
機能構築医学専攻 Program in Function Construction Medicine	1年	39	32	10	42
	2年	39	33	5	38
	3年	39	25	6	31
	4年	49	35	10	45
小計		166	125	31	156
健康社会医学専攻 Program in Health and Community Medicine	1年	27	12	12	24
	2年	27	14	19	33
	3年	27	10	15	25
	4年	39	20	24	44
小計		120	56	70	126
計		644	466	196	662
研究生等		198	5	5	10

(2011年4月1日現在)

[研究科長直属大学院コース]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
2年	—	2	0	2
4年	—	1	0	1
計	—	3	0	3

(2011年4月1日現在)

[研究者養成特別コース(MD・PhDコース)]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
4年	—	0	1	1
計	—	0	1	1

(2011年4月1日現在)

[博士課程]

●前期課程

		入学定員	現員		
			男	女	合計
看護学専攻 Program in Nursing	1年	18	2	14	16
	2年	18	1	23	24
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	1年	20	13	9	22
	2年	20	16	12	28
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	1年	10	9	8	17
	2年	10	13	5	18
計		96	54	71	125

(2011年4月1日現在)

●後期課程

		入学定員	現員		
			男	女	合計
看護学専攻 Program in Nursing	1年	6	0	7	7
	2年	6	3	5	8
	3年	6	1	15	16
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	1年	7	0	3	3
	2年	7	2	3	5
	3年	7	5	3	8
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	1年	4	6	0	6
	2年	4	3	4	7
	3年	4	2	2	4
計		51	22	42	64

(2011年4月1日現在)

[修士課程]

		入学定員	現員		
			男	女	合計
医科学専攻 Program in Medical Science	1年	20	7	12	19
	2年	20	8	8	16
医科学専攻 医療行政コース (Young Leaders' Program (YLP)) Program in Medical Science, Healthcare Administration Course (Young Leaders' Program (YLP))	1年(国費)	10	5	3	8
計		50	20	23	43

(2011年4月1日現在)

学生定員および現員

医学部

[医学科]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	107	79	28	107
2年	107	91	17	108
3年	108	88	22	110
4年	100	80	23	103
5年	100	89	15	104
6年	100	87	23	110
計	622	514	128	642
研究生等	560	50	17	67

(2011年4月1日現在)

[保健学科]

	入学定員	現員		
		男	女	合計
1年	200	58	151	209
2年	206	61	152	213
3年	226	58	167	225
4年	226	61	175	236
計	858	238	645	883
研究生等	30	1	0	1

(2011年4月1日現在)

大学院医学系研究科修了者数

[医学博士課程] *満期退学者は除く。短期修了者を含む。

専攻	修了者数 [平成22年度]
分子総合医学専攻 Program in Integrated Molecular Medicine	27
細胞情報医学専攻 Program in Cell Information Medicine	18
機能構築医学専攻 Program in Function Construction Medicine	11
健康社会医学専攻 Program in Health and Community Medicine	11
計	67

(2011年3月31日現在)

[博士課程] *満期退学者は除く。短期修了者を含む。

●前期課程

専攻	修了者数 [平成22年度]
看護学専攻 Program in Nursing	16
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	28
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	16
計	60

(2011年3月31日現在)

●後期課程

専攻	修了者数 [平成22年度]
看護学専攻 Program in Nursing	0
医療技術学専攻 Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences	6
リハビリテーション療法学専攻 Program in Physical and Occupational Therapy	2
計	8

(2011年3月31日現在)

[修士課程]

●修了者数

専攻	修了者数 [平成22年度]
医科学専攻 Program in Medical Science	13 (8)

[注] ()はYoung Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す。

(2011年3月31日現在)

●修了者の進路

進学者	就職			その他
	官庁	民間企業等	医療機関	
3	2	5	2	1 (8)

[注] ()はYoung Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す。

(2011年3月31日現在)

医学部卒業者数

[卒業者数]

学校名	期間	卒業者数
愛知医学校 Aichi Medical School	1881(明治14)年10月～1903(明治36)年6月	1,082
愛知県立医学専門学校 Aichi Prefectural Medical College	1903(明治36)年7月～1920(大正9)年6月	1,967
愛知医科大学 Aichi Medical College	1920(大正9)年7月～1931(昭和6)年4月	427
名古屋医科大学 Nagoya Medical College	1931(昭和6)年5月～1939(昭和14)年3月	695
名古屋帝国大学医学部 Nagoya Imperial University School of Medicine	1939(昭和14)年4月～1947(昭和22)年9月	749
名古屋帝国大学附属医学専門部※ Nagoya Imperial University Medical College	1944(昭和19)年4月～1950(昭和25)年3月	744
名古屋大学医学部(旧制) Nagoya University School of Medicine (Under Old Educational System)	1947(昭和22)年10月～1954(昭和29)年3月	688
名古屋大学医学部 Nagoya University School of Medicine	1949(昭和24)年5月～2010(平成22)年3月	7,308
医学科 School of Medicine		(5,359)
保健学科 School of Health Sciences	2002(平成14)年3月～2010(平成22)年3月	(1,949)
計		20,968

※1947(昭和22)年10月 名古屋大学附属医学専門部と改称

[2010(平成22)年度の医学部卒業者数]

			卒業者数
名古屋大学医学部 Nagoya University School of Medicine	医学科 School of Medicine		96
	保健学科 School of Health Sciences		223
計			319

(2011年3月31日現在)

学位(医学博士)授与者数

[学位授与者数]

区分	平成22年度
課程博士 Graduates of Doctor's Course	113
論文博士 Doctor's Approved by Thesis	20
計	133

(2011年3月31日現在)

[旧制学位授与者数]

期間	学位授与者数
自 1926(大正15)年1月23日 至 1960(昭和35)年3月31日	3,709

外国人留学生・外国人研究員等

[外国人留学生数]

身分		国費		私費		合計
		男	女	男	女	
学部学生	Undergraduate Students	0	0	0	2	2
研究生	Research Students	0	0	0	0	0
特別聴講学生	Special Undergraduate Students	0	0	0	0	0
大学院学生	Graduate Students in Doctor's Course	12	10	26	30	78
大学院研究生	Research Students in Doctor's Course	0	1	4	3	8
大学院特別研究学生	Special Graduate Students in Doctor's Course	0	0	0	0	0
特別研究学生	Special Research Students	0	0	0	0	0
日本語・日本文化研修生※	Japanese Studies Students	1	0	0	0	1
計		13	11	30	35	89
外国人研究員等	Visiting Research Fellow, etc.	46				

※日本語・日本文化研修生は、留学生センター所属であるが、研修期間(4月～9月)終了後は、医学系研究科大学院研究生となる。(2011年4月1日現在)

[国別外国人留学生数・外国人研究員等数]

国名	外国人留学生(2011年4月1日現在)	外国人研究員等[平成22年度]
中国 China	52	19(香港1)
台湾 Taiwan	3	1
韓国 Korea	1	3
モンゴル Mongolia	2	0
タイ Thailand	1	11
カンボジア Cambodia	1	0
バングラデシュ Bangladesh	10	2
ラオス Laos	1	0
ベトナム Vietnam	2	0
インドネシア Indonesia	1	0
ウズベキスタン Uzbekistan	2	0
キルギス Kyrgyz	1	0
インド India	2	1
トルコ Turkey	1	0
グアテマラ Guatemala	1	0
エジプト Egypt	3	2
イラン Iran	0	1
ドイツ Germany	0	1
パキスタン Pakistan	1	0
マレーシア Malaysia	3	0
エチオピア Ethiopia	1	0
イギリス UK	0	2
オーストリア Austria	0	1
イラク Iraq	0	1
計	89	46

[注] ()は外数を示す。

国際交流協定による派遣学生数および受入学生数

	国名	大学名	締結年月日	派遣学生数	受入学生数
協定校 Main Sister University	アメリカ合衆国 (7機関) U.S.A.	ノースカロライナ大学チャペルヒル校医学部 The University of North Carolina, School of Medicine at Chapel Hill	1989年7月3日	2	0
		ハーバード大学医学部 Harvard University Medical School	1995年11月28日	0	0
		チューレン大学医学部 Tulane University, School of Medicine	1995年11月29日	1	0
		ペンシルベニア大学医学部 University of Pennsylvania, School of Medicine	1997年3月26日	1	0
		デューク大学医学部 Duke University, School of Medicine	2002年12月20日	2	0
		ジョンズホプキンス大学医学部 Johns Hopkins University, School of Medicine	2003年1月1日	2	0
		テキサス大学医学部 The University of Texas, School of Medicine	2007年8月8日	0	0
	ポーランド (1機関) Poland	グダニスク医科大学医学部 Medical University of Gdansk	1995年7月31日	0	1
	ドイツ (1機関) Germany	フライブルグ大学医学部 Albert-Ludwigs-University Freiburg, School of Medicine	2000年4月5日	0	1
	イギリス (1機関) UK	ウォーリック大学医学部 Warwick University, Medical School	2005年7月22日	2	1
	オーストリア (1機関) Austria	ウィーン医科大学 The Medical University of Vienna	2005年7月12日	0	2
	モンゴル (1機関) Mongolia	モンゴル健康科学大学 Health Sciences University of Mongolia	2004年8月26日	0	0
	中国 (2機関) China	上海交通大学 Shanghai Jiao Tong University	2009年12月1日	0	2
北京大学医学部 Peking University Health Science Center		2010年11月10日	0	0	
その他 Out of Main Sister University	北アメリカ North America			1	1
	南アメリカ South America			0	0
	ヨーロッパ Europe			0	3
	アジア Asia			1	1
	オセアニア Oceania			5	0
	アフリカ Africa			0	0
計				17	12

(2010[平成22]年度)

医学部・医学系研究科からの国別海外留学者数

国名	州	留学者数
アメリカ合衆国 U.S.A.	カリフォルニア California	1
	メリーランド Maryland	2
	ペンシルベニア Pennsylvania	2
	ノースカロライナ North Carolina	4
	ニューオーリンズ New Orleans	1
イギリス UK		5
オーストラリア Australia		6
中国 China		1
計		22

[注] 派遣学生を含む。

(2010[平成22]年度)

名古屋大学附属図書館医学部分館 (保健学図書室を含む)

[蔵書数]

	蔵書数
和書 Japanese Books	103,990
洋書 Foreign Books	114,048
計	218,038

(2011年4月1日現在)

[定期刊行物種類数]

	種類数
和雑誌 Japanese Journals	2,639
洋雑誌 Foreign Journals	2,791
計	5,430

(2011年4月1日現在)

[オープンアクセス・ジャーナル] (2月、8月web公開)

Nagoya Journal of Medical Science

▶ http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/nagoya_j_med_sci/

スキルス&ITラボラトリーの使用状況

[各部屋の使用状況]

部屋名	使用数 [平成22年度]
視聴覚室	13
画像診断ラボ	81
超音波ラボ	18
スキルスラボ	496
顕微鏡ラボ	191
診療シミュレーション室	527
ITラボラトリー	2
計	1,328

[所属ごとの使用状況]

所属名	使用数 [平成22年度]
医学科	836
保健学科	79
大学院	39
総合医学教育センター	68
病院	290
その他	16
計	1,328

解剖体数

年度	系統解剖体 (献体数)	病理解剖体
2004 (平成16) 年度	37	50
2005 (平成17) 年度	39	36
2006 (平成18) 年度	49	42
2007 (平成19) 年度	52	33
2008 (平成20) 年度	45	38
2009 (平成21) 年度	64	32
2010 (平成22) 年度	49	27

産学官連携に関するデータ 知的財産

名古屋大学では2004年の大学法人化以降、大学で創出された知的財産を、研究者個人ではなく大学組織全体で保有し、より効率的な活用につなげるよう努めている。

大学院医学系研究科も全学の方針にそって、知的財産を広く社会で役立つシーズとして発信し、組織の総合力をもって活用に取り組んでいる。

[特許]

● 特許等件数（登録）

区分	国内		外国		合計
	単独	共同	単独	共同	
大学院医学系研究科	8	3	2	0	13
医学部附属病院	3	4	—	—	7
計	11	7	2	0	20

(2011年4月1日現在)

● 特許一覧（登録／大学院医学系研究科・医学部附属病院／国内単独）

発明の名称	登録日	登録番号	発明者
肉眼で見やすい細胞診マーカー	1997/3/11	2615427	吉田 泰彦
ミッドカインの受容体、 ミッドカイン依存性の細胞生存を抑制する方法および ミッドカイン依存性の細胞生存を促進する方法	2005/7/8	3694731	村松 喬／村松 壽子
四肢用陽圧チャンバー	2009/1/9	4243647	平田 仁 他
皮膚組織改善材およびその製造方法	2009/1/23	4247333	蛭沢 克己／加藤 竜司／ 各務 秀明／上田 実
創外固定器	2009/5/15	4304321	平田 仁／建部 将広／篠原 孝明
急性腎障害及び予後推定用バイオマーカー並びにその用途	2009/12/18	4423375	門松 健治／湯沢 由紀夫／ 林 宏樹／松尾 清一 他
siRNAを用いたヒト血管内皮増殖因子の発現の強い抑制。	2010/3/26	4480125	武井 佳史／門松 健治／村松 喬
光干渉断層装置	2010/4/30	4501007	伊藤 逸毅
機械受容 (Stretch Activated) チャネルの活性化抑制剤	2011/1/7	4654432	成瀬 恵治／曾我部 正博
細胞組織磁気信号検出装置	2011/1/21	4665105	中山 晋介／内山 剛 他
IgA腎症関連抗体の検出法	2011/3/18	4701391	鳥居 啓三／太田 美智男／岡本 陽

(2011年4月1日現在)

産学官連携に関するデータ 共同研究・受託研究

知的財産の管理と同様、企業との連携も研究者個人の活動から、大学としての組織的な活動へと変化し、総合的に推進されている。

関連資料 本冊子 P.15～17

[共同研究]

●民間等との共同研究実施件数および受入金額

年度	件数	受入金額(千円)
平成17年度	29	37,221
平成18年度	34	78,525
平成19年度	34	67,369
平成20年度	38	74,205
平成21年度	43	74,653
平成22年度	38	76,357

※研究員料・産学連携費(間接経費)を含む

[受託研究]

●受託研究経費(政府出資資金を含む)受入件数および受け入れ金額

年度	件数	受入金額(千円)
平成17年度	41	212,480
平成18年度	39	211,495
平成19年度	40	268,700
平成20年度	38	376,149
平成21年度	65	514,376
平成22年度	68	416,558

※間接経費を含む

共同研究・受託研究について詳しくは

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/1916/1917/index.html>

〈問い合わせ先等・担当事務〉

医学部・医学系研究科／事務部経営企画課研究協力掛

TEL : 052-744-2429 FAX : 052-744-2881

E-mail : iga-kenkyu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院医学系研究科では、最新の研究成果のなかから特に社会的影響力が強いと考えるものを

選び、ニュースソースとして各メディアに報告している。期間内では、以下の4件をリリースした。

[一覽]

日付	研究内容
2009年12月8日	糖鎖の新しい機能を発見
2010年4月1日	膵臓は再生する
2010年10月21日	高齢マウスにおけるエクササイズによる血管機能改善の機序
2011年1月13日	ミノサイクリンはミクログリアの活性化を抑制することによって浸透圧性脱髄症候群を予防する

[解説]

糖鎖の新しい機能を発見

細胞膜の外側に発現する糖鎖の役割が注目されているが、脳神経系組織でよく認められるガングリオシドという糖鎖の新機能が、中部大学生命医科学科との共同研究で発見された。ガングリオシドが欠損すると免疫の一種である補体が活性化して炎症を引き起こし、その炎症がアルツハイマー病などの神経変成を起こす、または増強することが示された。

高齢マウスにおけるエクササイズによる血管機能改善の機序

加齢にともなって発症する脳卒中などの虚血性疾患の予防・治療にエクササイズが有効であることが、高齢マウスを用いた実験で確認された。また、その機序の一端も解明された。このことは、疾患に対し薬物療法・外科治療に加え、生活習慣指導や運動療法が効果的であることをあらためて示した。また、その機序の解明は、新しい薬剤・治療法の可能性を示唆した。

膵臓は再生する

附属病院・大学院医学系研究科の消化器内科は愛知県がんセンターとの共同研究で、これまで再生しない臓器のひとつと考えられてきた膵臓が再生することを世界で初めて明らかにした。これまで膵臓の炎症などから引き起こされる疾患には対症療法しかないと考えられてきたが、この研究成果から根本治療の可能性が示された。

ミノサイクリンはミクログリアの活性化を抑制することによって浸透圧性脱髄症候群を予防する

頻度の高い疾患である低ナトリウム血症の治療時の合併症であるODS(浸透圧性脱髄症候群)には、現状では治療法がなく、患者はしばしば死に至る。糖尿病・内分泌内科学は名古屋大学環境医学研究所との共同研究で、抗生物質の一種であるミノサイクリンがODSを予防することを発見し、このことでODSの新治療法の可能性が示唆された。

ニュースリリースについての詳細は

▶ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/1796/index.html>

鶴舞公開講座

医学部医学科では、従来からあった市民向け講座を2005（平成17）年度から一新し、附属病院との共催で年一回行っている。

テーマはいずれも社会背景や、日常で役立つ話題提供という点などを考慮して選定され、さいわい多くの市民にご参

加いただいている。参加者は20代から80代まで幅広く、リピーターも多い。講演を熱心に聞くだけでなく、質疑応答も活発に行われ、医学部医学科・附属病院と市民との貴重な交流の場として、重要な役割を果たしている。

[鶴舞公開講座の歩み]

年度	講座名	開催日	参加者数
2005年(平成17)年度	今が旬、メタボリック症候群ってなに？	12月10日	約100名
2006年(平成18)年度	ここまで来ていたがん治療：少し安心、もっと勉強	10月29日	85名
2007年(平成19)年度	もうすぐ手に届く治療ことはじめ：そんなことができるの！	10月27日	65名
2008年(平成20)年度	高齢化の波を乗り越えろー君が老いれば、僕も老いるー	10月4日	約130名

[2009(平成21)年度の公開講座]

心も体も健やかに ーオイオイ、といわれないうためにー

〈開催日〉2009年11月21日

〈参加者数〉約200名

日本は現在、世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎えている。このような社会に暮らす人々の関心事であると捉え、「老化」「介護」というキーワードで三人の講師が講演。老化とうまくつきあうための考え方や、在宅介護を成功させる秘訣などを伝えた。



[2010(平成22)年度の公開講座]

食事：もっとも身近な健康法

〈開催日〉2010年11月20日

〈参加者数〉約230名

日本では医療費を含む社会保障給付費が過去最高水準になり、疾病予防の重要性は増している。そうした情勢を受け、健康づくり三要素のひとつである「栄養」つまり「食事」をテーマとした。「生活習慣病」「薬と食品の飲み合わせ」「高齢者の栄養」といったキーワードで三人の講師が講演した。



ロケーション

鶴舞キャンパス



移動時間

25分

(地下鉄・JR使用)

移動時間

30分

(地下鉄・JR使用)



東山キャンパス

移動時間

20分

(地下鉄使用)



大幸キャンパス

鶴舞キャンパス配置図



(2011年4月1日現在)

1 医学部基礎医学研究棟
Building for Medical Research

2 医学部基礎医学研究棟別館
Annex, Medical Research

3 医系研究棟1号館
Medical Science Research Building 1

4 医系研究棟2号館
Medical Science Research Building 2

5 附属医学教育研究支援センター
(実験動物部門)
Center for Research of Laboratory Animals
and Medical Research Engineering
(Division for Research of Laboratory Animals)

6 アイソトープ総合センター分館
Radioisotope Center Medical Division

7 解剖教育施設保存棟
Human Anatomy Laboratory

8 附属図書館医学部分館・食堂
Medical Library and Cafeteria

9 厚生会館
Welfare Facilities

10 鶴友会館
Kakuyu Alumni Hall

11 病棟
Wards

12 外来棟
Out-patients Clinic

13 中央診療棟
Clinical Laboratory and Examination Center

14 エネルギーセンター棟
Energy Center

15 看護師宿舎A棟
Dormitory for Nurses A

16 看護師宿舎B棟
Dormitory for Nurses B

17 旧西病棟
Former Ward

18 特殊診療棟[※]
Specialized Clinical Division

※ 取り壊し工事中

総務課	13 中央診療棟	7F
人事労務グループ	12 外来棟	4F
学務課	1 医学部基礎医学研究棟	1F
経営企画課	12 外来棟	4F
経理課	12 外来棟	4F

施設管理グループ	12 外来棟	4F
医事課	12 外来棟	1F
医療サービス課	13 中央診療棟	2F・4F
病歴管理室	12 外来棟	4F

[大学院医学系研究科・医学部 建物配置案内図] (2011年4月1日現在)

13F	皮膚科／形成外科／小児外科		
12F	整形外科／リウマチ科／耳鼻咽喉科		
11F	眼科／歯科口腔外科		
10F	精神科／脳神経外科		
9F	消化器内科／腎臓内科／神経内科		
8F	放射線科／化学療法部		
7F	血液内科／循環器内科／ 臓器病態診断学	国際保健医療学・公衆衛生学／ 環境労働衛生学／分析機器部門／ グローバルCOE推進室	
6F	呼吸器内科／糖尿病・内分泌内科／ 老年内科	予防医学／生理学第一／生理学第二	
5F	産科婦人科／小児科	免疫学／腫瘍生物学／分子腫瘍学	
4F	泌尿器科／麻酔科	薬理学／細菌学／神経遺伝情報学	第3講義室／第4講義室
3F	消化器外科一／血管外科／心臓外科／ 呼吸器外科	生化学第一／生化学第二／ウイルス学	代謝病態学寄附講座／免疫機能制御学寄附講座／ 腎不全総合治療学寄附講座／生化学第二／循環器内科／ 第1講義室／第2講義室／ゼミ室
2F	消化器外科二／移植外科／ 乳腺・内分泌外科／救急部	病理学第一／病理学第二／解剖学第一	分子循環器学(興和)寄附講座／ 消化器疾患先端研究寄附講座／ 健康栄養医学・分子病理学／ゼミ室／ラウンジ
1F	総合診療科／薬剤部／ コンビニエンスストア	解剖学第二／解剖学第三／法医学／ 分析機器部門	国際交流室／Young Leaders' Program(YLP)／ 会議室／更衣室／事務部
B1F	会議室／手の外科		
医系研究棟1号館		医系研究棟2号館	医学部基礎医学研究棟

大幸キャンパス配置図



(2011年4月1日現在)

1 医学部保健学科本館
School of Health Sciences

2 医学部保健学科別館
Annex, School of Health Sciences

3 医学部保健学科東館
School of Health Sciences (East Building)

4 医学部保健学科南館
School of Health Sciences (South Building)

5 体育館
Gymnasium

6 大幸厚生会館
Daiko Student Hall

7 エネルギー棟
Energy Center

8 コバルト照射棟
Radioisotope Laboratory (⁶⁰Co)

9 リサーチャーズビレッジ大幸
Researchers Village DAIKO

土地及び建物

鶴舞キャンパス

面積(土地) 89,137m ²	位置 名古屋市昭和区鶴舞町65番地	建物 [建面積] 33,108m ² [延面積] 202,699m ²
-----------------------------	-------------------	---

名称	構造	建面積 (m ²)	延面積 (m ²)
① 医学部基礎医学研究棟 Building for Medical Research	RC4-1	1,651	6,585
② 医学部基礎医学研究棟別館 Annex, Medical Research	RC5	695	3,158
③ 医系研究棟1号館 Medical Science Research Building 1	S13-2	1,493	20,875
④ 医系研究棟2号館 Medical Science Research Building 2	RC7	1,515	10,300
⑤ 附属医学教育研究支援センター (実験動物部門) Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering (Division for Research of Laboratory Animals)	RC7-1	889	6,488
⑥ アイソトープ総合センター分館 Radioisotope Center Medical Division	RC4・RC2	695	1,803
⑦ 解剖教育施設保存棟 Human Anatomy Laboratory	RC1	301	301
⑧ 附属図書館医学部分館・食堂 Medical Library and Cafeteria	RC4-1	974	3,138
⑨ 厚生会館 Welfare Facilities	RC3	308	760
⑩ 鶴友会館 Kakuyu Alumni Hall	RC3	550	1,354
⑪ 病棟 Wards	S14-2	4,721	52,297
⑫ 外来棟 Out-patients Clinic	RC4	5,309	19,446
⑬ 中央診療棟 Clinical Laboratory and Examination Center	SRC7-2	5,881	43,612
⑭ エネルギーセンター棟 Energy Center	RC3-1	903	3,199
⑮ 看護師宿舎A棟 Dormitory for Nurses A	SRC10	675	6,158
⑯ 看護師宿舎B棟 Dormitory for Nurses B	RC6	563	2,741
⑰ 旧西病棟 Former Ward	RC6-1	1,584	14,525
⑱ 特殊診療棟※ Specialized Clinical Division	RC5-1	322	1,702
その他 Others		4,079	4,257
計		33,108	202,699

※取り壊し工事中

(2011年4月1日現在)

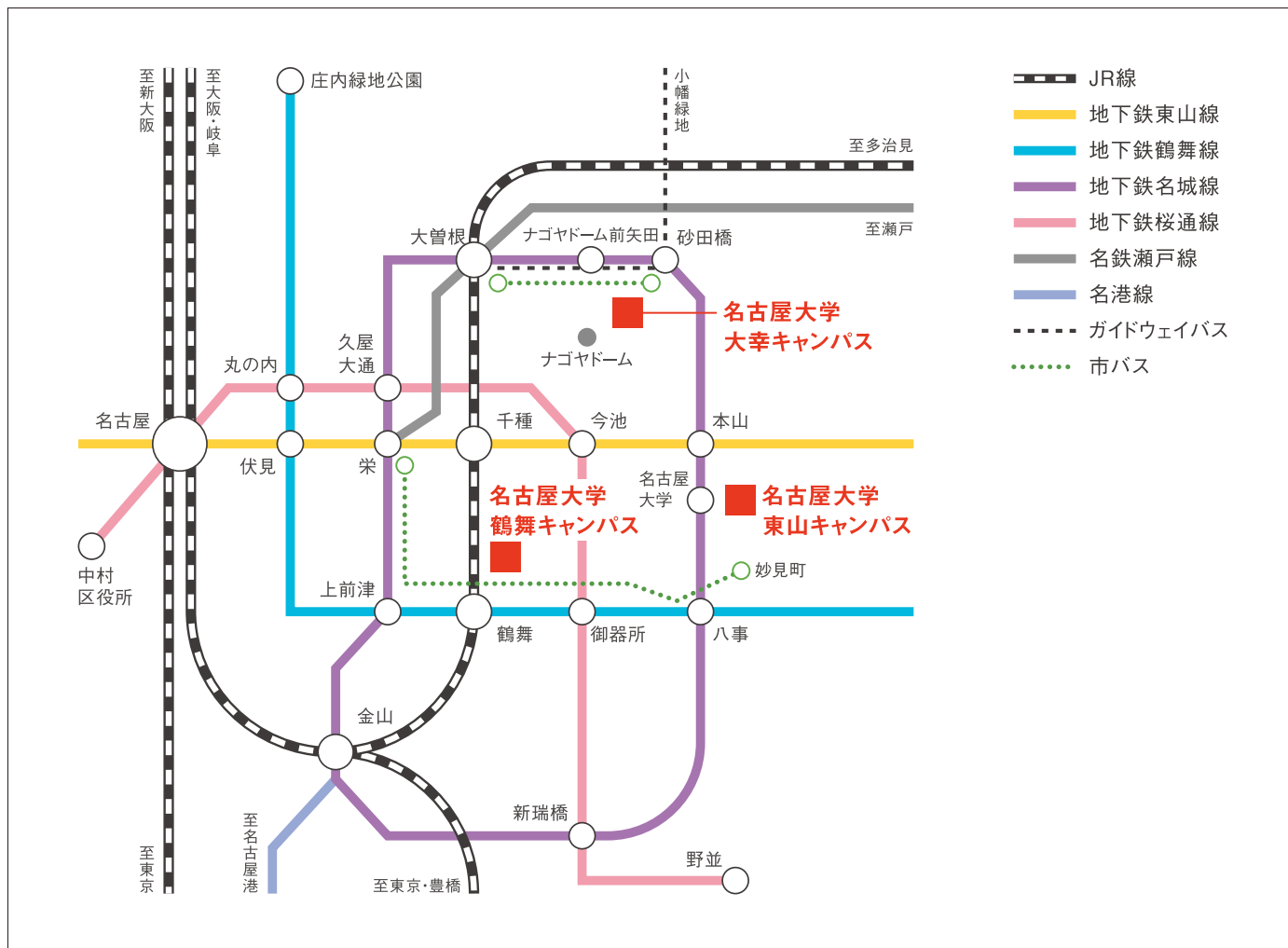
大幸キャンパス

面積(土地) 48,463m ²	位置 名古屋市東区大幸南1丁目1-20	建物 [建面積] 10,712m ² [延面積] 28,474m ²
-----------------------------	---------------------	--

名称	構造	建面積 (m ²)	延面積 (m ²)
① 医学部保健学科本館 School of Health Sciences	RC5	1,414	5,835
② 医学部保健学科別館 Annex, School of Health Sciences	RC4	579	2,431
③ 医学部保健学科東館 School of Health Sciences (East Building)	RC4	1,040	3,331
④ 医学部保健学科南館 School of Health Sciences (South Building)	RC4	3,021	8,067
⑤ 体育館 Gymnasium	SRC1	1,369	1,369
⑥ 大幸厚生会館 Daiko Student Hall	RC2	678	1,338
⑦ エネルギー棟 Energy Center	RC2	606	894
⑧ コバルト照射棟 Radioisotope Laboratory (⁶⁰ Co)	RC1	353	353
⑨ リサーチャーズビレッジ大幸 Researchers Village DAIKO	RC3	280	720
その他 Others		1,372	4,136
計		10,712	28,474

(2011年4月1日現在)

交通案内



鶴舞キャンパス[交通]

- JR中央本線「鶴舞駅」(名大病院口側)下車徒歩3分。
- 地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」下車徒歩8分。
- 市バス「栄」から栄⑱系統「妙見町」行きで「名大病院」下車。

大幸キャンパス[交通]

- JR中央本線「大曽根駅」(北口)下車徒歩15分。
- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田駅」下車徒歩10分。又は、「砂田橋駅」下車徒歩7分。
- 市バス「大曽根」から名駅⑮系統「砂田橋」行きで「名大大幸医療センター」下車。
- ガイドウェイバス「ナゴヤドーム前矢田駅」下車徒歩10分。又は、「砂田橋駅」下車徒歩7分。

東山キャンパス[交通]

- 地下鉄名城線「名古屋大学駅」下車。
- 市バス「栄」から栄⑯・⑰系統「名古屋大学」行きで「名古屋大学」下車。

発行年月／2011年6月

企画編集

名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

総務課 総務企画室

TEL 052-744-2008

名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

[鶴舞地区]

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地

TEL (052)741-2111 FAX (052)744-2785

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/>

[大幸地区]

〒461-8673 名古屋市東区大幸南1丁目1-20

TEL (052)719-1504 FAX (052)719-1506

<http://health.met.nagoya-u.ac.jp/>

